

④ 情報・電気・数理データサイエンス系

【ディプロマ・ポリシー,カリキュラム・ポリシー,授業科目,履修方法,授業要旨】

情報・電気・数理データサイエンス系の学位授与と教育課程編成・実施の方針

情報工学コースディプロマ・ポリシー

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系情報工学コースは、高度情報化社会の基盤を支えるのに必要不可欠な人材を養成する。具体的には、コンピュータのソフトウェア及びハードウェア、情報と計算の科学、画像・音声・自然言語等の処理、人工知能に関する基礎知識を有し、それらを社会情報システムや知能システムに応用できる能力を有する情報処理技術者・研究者を養成する。

情報工学コースディプロマ・ポリシーはこの理念に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身に付けたものと認定し、学士（工学）の学位を授与する。

情報工学コース DP・コンピテンシー				
学部 DP	コース DP 要素	コース DP 詳述	コンピテンシー	コンピテンシー詳述
教養 1	多面的に考える素養と能力【教養 1】	持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のため、技術者・研究者として、今日的課題についての知識、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けている。	俯瞰的な課題把握と総合的な調査	今日的課題、多様な考え方、事実等に関し、意見や結論を述べるための俯瞰的な課題把握と総合的な調査をすることができる。
			多様性の理解と社会参加	持続可能な社会実現のため、多様な地域や文化を理解し、その中で活動することができる。
教養 2	技術者・研究者倫理【教養 2】	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けている。	技術者・研究者責任の理解	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任を理解し説明することができる。
			技術者・研究者倫理の理解	技術者・研究者としての倫理的責任を認識し説明することができる。
専門性 1	工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性 1】	数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けている。	数学の知的基盤	数学分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
			工学・自然科学の知的基盤	工学・自然科学分野に関する基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけ、整理することができる。
			情報・数理データサイエンスの知的基盤	情報・数理データサイエンス分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
専門性 2	プログラミング言語の理解と実践【専門性 2-1】	代表的なプログラミング言語の文法、特徴、背後にある思想や数学的理論を理解し、適切なプログラムを作成する能力を身に付けている。	プログラミング言語の理解と実践	代表的なプログラミング言語の文法、特徴、背後にある思想や数学的理論を理解し、適切なプログラムを作成できる。
	情報処理システムの理解と応用【専門性 2-2】	コンピュータのハードウェアとソフトウェアに関する技術を理解し、目的に応じた情報処理システムを設計する能力を身に付けている。	情報処理システムの理解と応用	コンピュータのハードウェアとソフトウェアに関する技術を理解し、目的に応じた情報処理システムを設計できる。
	知能情報処理技術の理解と応用【専門性 2-3】	画像、音声、自然言語等の処理技術と人工知能に関する基盤技術を理解し、それらをコンピュータ上に実装する能力を身に付けている。	知能情報処理技術の理解と応用	画像、音声、自然言語等の処理技術と人工知能に関する基盤技術を理解し、それらをコンピュータ上に実装できる。
	課題発見・解決能力【専門性 2-4】	複雑な社会課題を特定し、情報処理技術を活用した解決策を提示する能力を身に付けている。	課題発見・解決能力	複雑な社会課題を特定し、情報処理技術を活用した解決策を提示することができる。
情報力	社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】	先端的な工学の発展を担うため、社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、的確に理解する能力、成果を効果的に発信する能力を身に付けている。	情報収集・分析能力	情報を的確に収集し、データに基づいて適切に分析することができる。
			情報活用・発信能力	先端的な工学の発展を担うため、情報のアップデートと品質管理を行い、データに基づいた判断を下し、また、成果を効果的に発信できる。
行動力 1	コミュニケーション能力【行動力 1】	様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けている。	国際的視野	世界的水準で重要な事象を理解し議論できる。
			コミュニケーション能力	論理的かつ効果的な記述、口頭発表、討議ができる。
行動力 2	仕事の立案遂行及び総括能力【行動力 2】	創造的・計画的に仕事を進め、リーダーシップを発揮し、成果としてまとめる能力を身に付けている。	立案遂行能力	目標を設定し、チームが効果的かつ創造的に機能する計画を立案遂行できる。
			チーム総括能力	チームをまとめ、協調的かつ包括的な仕事環境の構築ができる。
自己実現力	生涯に亘る学習能力【自己実現力】	自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けている。	継続的学習能力	自主的、継続的に学習を続け、必要に応じて新しい知識や技能を取得及び活用できる。
			持続可能な社会へ貢献する能力	持続可能な社会を実現するために生涯に亘り自己を高めてゆける。

情報工学コースカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成方針

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系情報工学コースでは、ディプロマ・ポリシーを満足する人材を養成します。カリキュラムは、教養教育科目と専門教育科目で構成します。

教養教育科目は、社会人として幅広い知識を修得するための科目として設定しており、ある程度専門性を修得したうえで、専門性を生かすために有益となる幅広い知識を身に付けることができる高年次を対象とした科目も設けています。

専門教育科目は、特定の高度な知的及び技術的な専門分野を学ぶものとして、学部共通の専門基礎科目と、専門科目に分けており、専門科目はさらに系科目とコース科目に分けています。専門基礎科目は、各専門領域の基礎となる授業科目として位置付けており、

工学の学問・研究に必要な基礎学力やグローバルな視点からの学際的な知識を身に付けるための科目を設定しています。系科目は系の共通科目で、各系の専門領域について知識と技術を修得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目です。コース科目では、系からさらに細分化された各コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるための科目を設定しています。

工学部の教育カリキュラムの特徴は、次の4点にあります。①SDGsを理解するためのSDGs科目を学部共通の教養教育科目の必修科目として履修します。②Society5.0実現のために必要不可欠な素養である数理・データサイエンス科目を、教養教育科目と専門教育科目の枠組みで、いずれも1年次に集中して履修します。③3年次にELSI(倫理的・法的・社会的な課題)教育のための科目を履修します。④大学院に進学する学生が博士前期課程の授業を4年次に先取り履修可能なシステムを設けています。

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系情報工学コースでは、本コースディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるために、以下の方針により体系的な教育課程を編成しています。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標(SDGs)に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現に必要な、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次には知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次に高年次教養科目を設定しています。特に、教養教育科目の区分で開講するSDGs科目、「数理・データサイエンスの基礎」、高年次教養科目のELSI教育科目では、Society5.0 for SDGsの実現に必要な基礎的能力を身に付けます。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次の高年次教養科目を設定しています。特に、1年次の専門基礎科目の「工学安全教育」、2年次以降のコース科目の演習や実習、3年次の高年次教養科目のELSI教育科目では、工学系人材として不可欠な技術者・研究者倫理能力を身に付けます。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学、自然科学及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解の区分で自然科学系科目、3年次に高年次教養科目を、専門教育科目では、1年次に専門基礎科目(専門英語は3年次に開講)、「数理・データサイエンス(発展)」を設定しています。また、低学年次に開講する系科目では、専門分野の基礎知識の活用能力を身に付けます。

プログラミング言語の理解と実践【専門性2-1】

代表的なプログラミング言語の文法、特徴、背後にある思想や数学的理論を理解し、適切なプログラムを作成する能力を身に付けるための科目として、2年次に「データ構造とアルゴリズム」、「プログラミング演習1・2」などを、3年次に「プログラミング技法」、「プログラミング言語」、「オブジェクト指向言語」などを提供します。

情報処理システムの理解と応用【専門性2-2】

コンピュータのハードウェアとソフトウェアに関する技術を理解し、目的に応じた情報処理システムを設計する能力を身に付けるための科目として、2年次に「コンピュータハードウェア」、「オペレーティングシステム」、「システムプログラミング1・2」などを、3年次に「ソフトウェア設計」、「コンパイラ」、「情報工学実験A(ハードウェア)」、「情報工学実験C(ソフトウェア)」などを提供します。

知能情報処理技術の理解と応用【専門性2-3】

画像、音声、自然言語等の処理技術と人工知能に関する基盤技術を理解し、それらをコンピュータ上に実装する能力を身に付けるための科目として、2年次に「パターン認識と学習」、「数理論理学」、「画像処理」などを、3年次に「人工知能」、「知識工学」、「情報工学実験B(メディア処理)」、「言語解析論」、「デジタル信号処理(情報)」、「映像メディア処理」などを提供します。

社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】

社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、解決した課題を効果的に情報発信する能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、1年次の「数理・データサイエンスの基礎」、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に「技術表現法」、4年次に「特別研究」を提供します。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、言語科目、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に「技術表現法」、専門基礎科目で「専門英語」を提供します。また、海外での語学研修、海外留学やインターンシップ等のプログラムを提供します。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め、成果をまとめる能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、4年次に「特別研究」を提供します。

生涯に亘る学習能力【自己実現力】

自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に高年次教養科目、キャリア関連科目を提供します。特に、海外留学やインターンシップ等のプログラムの他、正課外のボランティア活動等の機会を積極的に利用することを推奨します。また、4年次に「特別研究」を提

供します。

その他

- ・各授業科目とディプロマ・ポリシーに掲げた能力の関係はシラバスに明示します。
- ・学生は2年次からコースごとに定められたカリキュラムで学習します。また、4年次から教育研究分野（研究室）に配属します。
- ・3年次及び4年次へ進級するためには、定めた要件を満たす必要があります。
- ・ELSI教育科目として高年次教養科目「工学倫理」を提供します。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

1年次には教養教育科目と専門基礎科目を、2年次からコースに分かれて、専門科目を中心に系科目とコース科目を履修します。3年次には専門科目に加えて高年次教養科目を履修します。なお、2年次のコース分け後も、他のコースの専門科目を履修することで幅広い知識が身に付けられるようになっていきます。4年次には教育研究分野（研究室）に配属され、「特別研究」により課題発見と解決に取り組みます。授業科目は到達目標に応じて講義、演習、実習、実験等により開講します。

3. 学習成果の評価方針

学習成果は、授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、到達目標の達成度を厳格に判定します。

ネットワーク工学コースディプロマ・ポリシー

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系ネットワーク工学コースは、高速・大容量通信のためのコンピュータネットワーク構築に不可欠なユーザ端末間をつなぐ物理的なネットワーク機器、ネットワーク制御のためのソフトウェア技術、セキュリティ技術、ユーザ端末の相互接続のための有線・無線通信技術に通じ、通信ネットワーク工学に関連する諸問題の解決に寄与する技術者・研究者を養成する。

ネットワーク工学コースディプロマ・ポリシーはこの理念に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身に付けたものと認定し、学士（工学）の学位を授与する。

ネットワーク工学コース DP・コンピテンシー				
学部 DP	コース DP 要素	コース DP 詳述	コンピテンシー	コンピテンシー詳述
教養 1	多面的に考える素養と能力【教養 1】	持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のため、技術者・研究者として、今日的課題についての知識、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けている。	俯瞰的な課題把握と総合的な調査	今日的課題、多様な考え方、事実等に関し、意見や結論を述べるための俯瞰的な課題把握と総合的な調査をすることができる。
			多様性の理解と社会参加	持続可能な社会実現のため、多様な地域や文化を理解し、その中で活動することができる。
教養 2	技術者・研究者倫理【教養 2】	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けている。	技術者・研究者責任の理解	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任を理解し説明することができる。
			技術者・研究者倫理の理解	技術者・研究者としての倫理的責任を認識し説明することができる。
専門性 1	工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性 1】	数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けている。	数学的知的基盤	数学分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
			工学・自然科学の知的基盤	工学・自然科学分野に関する基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけ、整理することができる。
			情報・数理データサイエンスの知的基盤	情報・数理データサイエンス分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
専門性 2	電気電子・通信ネットワーク工学の専門基礎知識と社会課題の発見能力【専門性 2-1】	電気工学、電子工学、通信工学及びネットワーク工学とその関連領域の基礎知識を修得し、これに基づき社会課題を発見・把握する能力を身に付けている。	電気通信分野の基礎知識	通信ネットワーク工学及び電気電子工学に関する専門知識や理論を理解し、説明することができる。
			電気通信分野の基礎知識の応用能力	通信ネットワーク工学及び電気電子工学に関する専門知識や理論を課題解決に応用することができる。
	ネットワーク工学分野の高度専門知識と社会課題の解決能力【専門性 2-2】	ネットワーク工学分野における高度専門知識を修得し、これに基づき社会課題を解決するためのプロセスをデザインする能力を身に付けている。	社会課題を発見・把握する能力	通信ネットワーク工学分野、及び、その周囲領域の社会課題を特定、定式化することができる。
			課題解決に至る実践力	通信ネットワーク工学分野の専門知識に基づいて多様な要因を解明し、課題解決に導くことができる。
情報力	社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】	先端的な工学の発展を担うため、社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、的確に理解する能力、成果を効果的に発信する能力を身に付けている。	情報収集・分析能力	情報を的確に収集し、データに基づいて適切に分析することができる。
			情報活用・発信能力	先端的な工学の発展を担うため、情報のアップデートと品質管理を行い、データに基づいた判断を下し、また、成果を効果的に発信できる。
行動力 1	コミュニケーション能力【行動力 1】	様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けている。	国際的視野	世界的水準で重要な事象を理解し議論できる。
			コミュニケーション能力	論理的かつ効果的な記述、口頭発表、討議ができる。
行動力 2	仕事の立案遂行及び総括能力【行動力 2】	創造的・計画的に仕事を進め、リーダーシップを発揮し、成果としてまとめる能力を身に付けている。	立案遂行能力	目標を設定し、チームが効果的かつ創造的に機能する計画を立案遂行できる。
			チーム総括能力	チームをまとめ、協力的かつ包括的な仕事環境の構築ができる。

自己実現力	生涯に亘る学習能力【自己実現力】	自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けている。	継続的学習能力	自主的、継続的に学習を続け、必要に応じて新しい知識や技能を取得及び活用できる。
			持続可能な社会へ貢献する能力	持続可能な社会を実現するために生涯に亘り自己を高めてゆける。

ネットワーク工学コースカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成方針

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系ネットワーク工学コースでは、ディプロマ・ポリシーを満足する人材を養成します。カリキュラムは、教養教育科目と専門教育科目で構成します。

教養教育科目は、社会人として幅広い知識を修得するための科目として設定しており、ある程度専門性を修得したうえで、専門性を生かすために有益となる幅広い知識を身に付けることができる高年次を対象とした科目も設けています。

専門教育科目は、特定の高度な知的及び技術的な専門分野を学ぶものとして、学部共通の専門基礎科目と、専門科目に分けており、専門科目はさらに系科目とコース科目に分けています。専門基礎科目は、各専門領域の基礎となる授業科目として位置付けており、工学の学問・研究に必要な基礎学力やグローバルな視点からの学際的な知識を身に付けるための科目を設定しています。系科目は系の共通科目で、各系の専門領域について知識と技術を修得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目です。コース科目では、系からさらに細分化された各コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるための科目を設定しています。

工学部の教育カリキュラムの特徴は、次の4点にあります。①SDGsを理解するためのSDGs科目を学部共通の教養教育科目の必修科目として履修します。②Society5.0実現のために必要不可欠な素養である数理・データサイエンス科目を、教養教育科目と専門教育科目の枠組みで、いずれも1年次に集中して履修します。③3年次にELSI(倫理的・法的・社会的な課題)教育のための科目を履修します。④大学院に進学する学生が博士前期課程の授業を4年次に先取り履修可能なシステムを設けています。

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系ネットワーク工学コースでは、本コースディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるために、以下の方針により体系的な教育課程を編成しています。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標(SDGs)に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現に必要な、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次には知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次に高年次教養科目を設定しています。特に、教養教育科目の区分で開講するSDGs科目、「数理・データサイエンスの基礎」、高年次教養科目のELSI教育科目では、Society5.0 for SDGsの実現に必要な基礎的能力を身に付けます。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次の高年次教養科目を設定しています。特に、1年次の専門基礎科目の「工学安全教育」、2年次以降のコース科目の演習や実験、3年次の高年次教養科目のELSI教育科目では、工学系人材として不可欠な技術者・研究者倫理能力を身に付けます。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学、自然科学及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解の区分で自然科学系科目、3年次に高年次教養科目を、専門教育科目では、1年次に専門基礎科目(専門英語は3年次に開講)、「数理・データサイエンス(発展)」を設定しています。専門基礎科目の選択科目では、「物理学基礎(力学)」、「物理学基礎(電磁気学)」、「プログラミング」、「微分方程式」をネットワーク工学コースの推奨科目としています。また、低学年次に開講する系科目では、専門分野の基礎知識の活用能力を身に付けます。系科目では、「技術表現法」、「特別研究」、「フーリエ解析・ラプラス変換」、「情報理論」を本コースの必修科目としています。

電気電子・通信ネットワーク工学の専門基礎知識と社会課題の発見能力【専門性2-1】

電気工学、電子工学、通信工学及びネットワーク工学とその関連領域の基礎知識と基盤技術を熟知し、それを社会課題の発見・把握につなげる能力を身に付けるため、2年次以降は電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学分野並びに計算機数学、通信工学、デジタル信号処理などの通信ネットワーク工学の基本となる専門科目を提供します。

ネットワーク工学分野の高度専門知識と社会課題の解決能力【専門性2-2】

ネットワーク工学分野の技術を熟知し、それを社会課題の解決に応用する能力を身に付けるため、コンピュータネットワークの設計・構築・運用技術、情報処理技術、セキュリティ技術、有線・無線通信技術などの通信ネットワーク工学に関する専門技術を幅広く提供します。「ネットワーク工学実験A」、「ネットワーク工学実験B」、「UNIXプログラミング」、「ネットワークプログラミング実験」並びに「特別研究」では、Society5.0の実現につながる実践的な能力を身に付けます。

社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】

社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、解決した課題を効果的に情報発信する能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、1年次の「数理・データサイエンスの基礎」、2年次に「ネットワーク工学実験A」、3年次に「ネットワーク工学実験B」、「UNIXプログラミング」、「技術表現法」、4年次に「特別研究」を提供します。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、言語科目、2年次に「ネットワーク工学実験A」、3年次に「ネットワーク工学実験B」、「技術表現法」、専門基礎科目で「専門英語」を提供します。また、海外での語学研修、海外留学やインター

ンシップ等のプログラムを提供します。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め、成果をまとめる能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、4年次に「特別研究」を提供します。

生涯に亘る学習能力【自己実現力】

自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に高年次教養科目、キャリア関連科目を提供します。特に、海外留学やインターンシップ等のプログラムの他、正課外のボランティア活動等の機会を積極的に利用することを推奨します。また、4年次に「特別研究」を提供します。

その他

- ・各授業科目とディプロマ・ポリシーに掲げた能力の関係はシラバスに明示します。
- ・学生は2年次からコースごとに定められたカリキュラムで学習します。また、3年次後半から教育研究分野（研究室）に配属します。
- ・3年次及び4年次へ進級するためには、コースごとに定めた要件を満たす必要があります。
- ・ELSI教育科目として高年次教養科目「工学倫理」を提供します。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

1年次には教養教育科目と専門基礎科目を、2年次からコースに分かれて、専門科目を中心に系科目とコース科目を履修します。3年次には専門科目に加えて高年次教養科目を履修します。なお、2年次のコース分け後も、他のコースの専門科目を履修することで幅広い知識が身に付けられるようになっています。教育研究分野（研究室）に配属された後、4年次には「特別研究」により課題発見と解決に取り組みます。授業科目は到達目標に応じて講義、演習、実習、実験等により開講します。

3. 学習成果の評価方針

学習成果は、授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、到達目標の達成度を厳格に判定します。

エネルギー・エレクトロニクスコースディプロマ・ポリシー

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系エネルギー・エレクトロニクスコースは、創エネ・省エネ・畜エネ、そして、これらのシステム制御からなるエネルギーマネジメントシステムの構築やこれに寄与する各種デバイス・材料の開発に必要な専門的教育だけでなく、現代技術者に不可欠な情報通信技術に関する教育を行い、グローバルなエネルギー問題の解決に様々な方面から貢献できる電気電子工学分野の技術者・研究者を養成する。

エネルギー・エレクトロニクスコースディプロマ・ポリシーはこの理念に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身に付けたものと認定し、学士（工学）の学位を授与する。

エネルギー・エレクトロニクスコース DP・コンピテンシー				
学部 DP	コース DP 要素	コース DP 詳述	コンピテンシー	コンピテンシー詳述
教養 1	多面的に考える素養と能力【教養 1】	持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のため、技術者・研究者として、今日的課題についての知識、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けている。	俯瞰的な課題把握と総合的な調査	今日的課題、多様な考え方、事実等に関し、意見や結論を述べるための俯瞰的な課題把握と総合的な調査をすることができる。
			多様性の理解と社会参加	持続可能な社会実現のため、多様な地域や文化を理解し、その中で活動することができる。
教養 2	技術者・研究者倫理【教養 2】	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けている。	技術者・研究者責任の理解	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任を理解し説明することができる。
			技術者・研究者倫理の理解	技術者・研究者としての倫理的責任を認識し説明することができる。
専門性 1	工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性 1】	数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けている。	数学的知的基盤	数学分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
			工学・自然科学の知的基盤	工学・自然科学分野に関する基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけ、整理することができる。
			情報・数理データサイエンスの知的基盤	情報・数理データサイエンス分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
専門性 2	電気電子・通信ネットワーク工学の専門基礎知識と社会課題の発見能力【専門性 2-1】	電気工学、電子工学、通信工学及びネットワーク工学とその関連領域の基礎知識を修得し、これに基づき社会課題を発見・把握する能力を身に付けている。	電気通信分野の基礎知識力	電気電子工学及び通信ネットワーク工学に関する専門知識や理論を理解し、説明することができる。
			電気通信分野の基礎知識の応用能力	電気電子工学及び通信ネットワーク工学に関する専門知識や理論を課題解決に応用することができる。
	エネルギー・エレクトロニクス分野の高度専門知識と社会課題の解決能力【専門性 2-2】	エネルギー・エレクトロニクス分野における高度専門知識を修得し、これに基づき社会課題を解決するためのプロセスをデザインする能力を身に付けている。	社会課題を発見・把握する能力	電気電子工学分野、及び、その周辺領域の社会課題を特定、定式化することができる。
			課題解決に至る実践力	電気電子工学分野の専門知識に基づいて多様な要因を解明し、課題解決に導くことができる。

情報力	社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】	先端的な工学の発展を担うため、社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、的確に理解する能力、成果を効果的に発信する能力を身に付けている。	情報収集・分析能力	情報を的確に収集し、データに基づいて適切に分析することができる。
			情報活用・発信能力	先端的な工学の発展を担うため、情報のアップデートと品質管理を行い、データに基づいた判断を下し、また、成果を効果的に発信できる。
行動力1	コミュニケーション能力【行動力1】	様々な専門分野との学際的・国際的な協力をを行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けている。	国際的視野	世界的水準で重要な事象を理解し議論できる。
			コミュニケーション能力	論理的かつ効果的な記述、口頭発表、討議ができる。
行動力2	仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】	創造的・計画的に仕事を進め、リーダーシップを発揮し、成果としてまとめる能力を身に付けている。	立案遂行能力	目標を設定し、チームが効果的かつ創造的に機能する計画を立案遂行できる。
			チーム総括能力	チームをまとめ、協調的かつ包括的な仕事環境の構築ができる。
自己実現力	生涯に亘る学習能力【自己実現力】	自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けている。	継続的学習能力	自主的、継続的に学習を続け、必要に応じて新しい知識や技能を取得及び活用できる。
			持続可能な社会へ貢献する能力	持続可能な社会を実現するために生涯に亘り自己を高めてゆける。

エネルギー・エレクトロニクスコースカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成方針

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系エネルギー・エレクトロニクスコースでは、ディプロマ・ポリシーを満足する人材を養成します。カリキュラムは、教養教育科目と専門教育科目で構成します。

教養教育科目は、社会人として幅広い知識を修得するための科目として設定しており、ある程度専門性を修得したうえで、専門性を生かすために有益となる幅広い知識を身に付けることができる高年次を対象とした科目も設けています。

専門教育科目は、特定の高度な知的及び技術的な専門分野を学ぶものとして、学部共通の専門基礎科目と、専門科目に分けており、専門科目はさらに系科目とコース科目に分けています。専門基礎科目は、各専門領域の基礎となる授業科目として位置付けており、工学の学問・研究に必要な基礎学力やグローバルな視点からの学際的な知識を身に付けるための科目を設定しています。系科目は系の共通科目で、各系の専門領域について知識と技術を修得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目です。コース科目では、系からさらに細分化された各コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるための科目を設定しています。

工学部の教育カリキュラムの特徴は、次の4点にあります。①SDGsを理解するためのSDGs科目を学部共通の教養教育科目の必修科目として履修します。②Society5.0実現のために必要不可欠な素養である数理・データサイエンス科目を、教養教育科目と専門教育科目の枠組みで、いずれも1年次に集中して履修します。③3年次にELSI（倫理的・法的・社会的な課題）教育のための科目を履修します。④大学院に進学する学生が博士前期課程の授業を4年次に先取り履修可能なシステムを設けています。

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系エネルギー・エレクトロニクスコースでは、本コースディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるために、以下の方針により体系的な教育課程を編成しています。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現に必要な、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次には知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次に高年次教養科目を設定しています。特に、教養教育科目の区分で開講するSDGs科目、「数理データ・サイエンスの基礎」、高年次教養科目のELSI教育科目では、Society5.0 for SDGsの実現に必要な基礎的能力を身に付けます。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次の高年次教養科目を設定しています。特に、1年次の専門基礎科目の「工学安全教育」、2年次以降のコース科目の演習や実験、3年次の高年次教養科目のELSI教育科目では、工学系人材として不可欠な技術者・研究者倫理能力を身に付けます。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学、自然科学及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解の区分で自然科学系科目、3年次に高年次教養科目を、専門教育科目では、1年次に専門基礎科目（専門英語は3年次に開講）、「数理・データサイエンス（発展）」を設定しています。専門基礎科目の選択科目では、「物理学基礎（力学）」、「物理学基礎（電磁気学）」、「プログラミング」、「微分方程式」をエネルギー・エレクトロニクスコースの推奨科目として提供しています。また、低学年次に開講する系科目では、専門分野の基礎知識の活用能力を身に付けます。系科目では、「技術表現法」、「特別研究」、「フーリエ解析・ラプラス変換」、「数値計算法」を本コースの必修科目として提供しています。

電気電子・通信ネットワーク工学の専門基礎知識と社会課題の発見能力【専門性2-1】

電気工学、電子工学、通信工学及びネットワーク工学とその関連領域の基礎知識と基盤技術を熟知し、それを社会課題の発見・把握につなげる能力を身に付けるため、2年次以降は電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学分野並びに計算機数学、通信工学、デジタル信号処理などの通信ネットワーク工学の基本となる専門科目を提供します。

エネルギー・エレクトロニクス分野の高度専門知識と社会課題の解決能力【専門性2-2】

エネルギー・エレクトロニクス分野の技術を熟知し、それを社会課題の解決に応用する能力を身に付けるため、電子材料物性、半導体・光デバイス、電力変換、制御工学、発送電工学などの専門科目を幅広く提供します。「エネルギー・エレクトロニクス実

験 A, 「エネルギー・エレクトロニクス実験 B」, 「UNIX プログラミング」並びに「特別研究」では, Society5.0 の実現につながる実践的な能力を身に付けます。

社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】

社会の要求に関し, 情報の収集と分析によって課題を整理し, 解決した課題を効果的に情報発信する能力を身に付けるために, 以下の科目を提供します。教養教育科目では, 1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目, 汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目, 1年次の「数理・データサイエンスの基礎」, 2年次に「エネルギー・エレクトロニクス実験 A」, 3年次に「エネルギー・エレクトロニクス実験 B」, 「UNIX プログラミング」, 「技術表現法」, 4年次に「特別研究」を提供します。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための, 論理的な記述力, 口頭発表力, 討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けるために, 以下の科目を提供します。教養教育科目では, 1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目, 汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目, 言語科目, 2年次に「エネルギー・エレクトロニクス実験 A」, 3年次に「エネルギー・エレクトロニクス実験 B」, 「技術表現法」, 専門基礎科目で「専門英語」を提供します。また, 海外での語学研修, 海外留学やインターンシップ等のプログラムを提供します。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め, 成果をまとめる能力を身に付けるために, 2年次以降に専門科目の演習, 実習科目, 4年次に「特別研究」を提供します。

生涯に亘る学習能力【自己実現力】

自主的, 継続的に学習を続け, 持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けるために, 2年次以降に専門科目の演習, 実習科目, 3年次に高年次教養科目, キャリア関連科目を提供します。特に, 海外留学やインターンシップ等のプログラムの他, 正課外のボランティア活動等の機会を積極的に利用することを推奨します。また, 4年次に「特別研究」を提供します。

その他

- ・各授業科目とディプロマ・ポリシーに掲げた能力の関係はシラバスに明示します。
- ・学生は2年次からコースごとに定められたカリキュラムで学習します。また, 3年次後半から教育研究分野(研究室)に配属します。
- ・3年次及び4年次へ進級するためには, コースごとに定めた要件を満たす必要があります。
- ・ELSI 教育科目として高年次教養科目「工学倫理」を提供します。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

1年次には教養教育科目と専門基礎科目を, 2年次からコースに分かれて, 専門科目を中心に系科目とコース科目を履修します。3年次には専門科目に加えて高年次教養科目を履修します。なお, 2年次のコース分け後も, 他のコースの専門科目を履修することで幅広い知識が身に付けられるようになっていきます。教育研究分野(研究室)に配属された後, 4年次には「特別研究」により課題発見と解決に取り組みます。授業科目は到達目標に応じて講義, 演習, 実習, 実験等により開講します。

3. 学習成果の評価方針

学習成果は, 授業の形態(講義, 演習, 実習, 実験等)に応じて, 定期試験, レポート, 授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき, 到達目標の達成度を厳格に判定します。

数理データサイエンスコースディプロマ・ポリシー

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系数理データサイエンスコースは, 現象の解明や社会課題の解決に主体的に取り組むため, 数理科学を基盤とするデータサイエンスの知識・技能を修得し, 根拠に基づいて客観的な議論や判断を行う能力を身につけた技術者・研究者を養成する。数理データサイエンスコースディプロマ・ポリシーはこの理念に基づき, 所定の期間在学し, 所定の単位を修得した学生に対し, 以下の能力を身に付けたものと認定し, 学士(工学)の学位を授与する。

数理データサイエンスコース DP・コンピテンシー				
学部 DP	コース DP 要素	コース DP 詳述	コンピテンシー	コンピテンシー詳述
教養 1	多面的に考える素養と能力【教養 1】	持続可能な開発目標 (SDGs) に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のため, 技術者・研究者として, 今日の課題についての知識, 多面的に物事を考える素養と能力を身に付けている。	俯瞰的な課題把握と総合的な調査	今日的課題, 多様な考え方, 事実等に関し, 意見や結論を述べるための俯瞰的な課題把握と総合的な調査をすることができる。
			多様性の理解と社会参加	持続可能な社会実現のため, 多様な地域や文化を理解し, その中で活動することができる。
教養 2	技術者・研究者倫理【教養 2】	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果, 技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し, 技術者・研究者としての倫理能力を身に付けている。	技術者・研究者責任の理解	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果, 技術者・研究者が社会に対して負っている責任を理解し説明することができる。
			技術者・研究者倫理の理解	技術者・研究者としての倫理的責任を認識し説明することができる。

専門性 1	工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性 1】	数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けている。	数学の知的基盤	数学分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。		
			工学・自然科学の知的基盤	工学・自然科学分野に関する基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけ、整理することができる。		
			情報・数理データサイエンスの知的基盤	情報・数理データサイエンス分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。		
専門性 2	数理学の知識とその応用能力【専門性 2-1】	データサイエンスの基礎となる数理学の方法と理論を修得し、現象の解明や社会課題の解決に応用する能力を身に付けている。	数理学の知識とその応用能力	数理学の方法と理論を修得し、現象の解明や社会課題の解決に応用することができる。		
			計算科学の知識とコンピュータの活用能力【専門性 2-2】	プログラミング、数値計算法、モデリング、シミュレーション、可視化など、データサイエンスを強化する計算科学の方法と理論を修得し、コンピュータを活用して現象の解明や社会課題の解決に応用する能力を身に付けている。	計算科学の知識とコンピュータの活用能力	計算科学の方法と理論を修得し、コンピュータを活用して現象の解明や社会課題の解決に応用することができる。
					データサイエンスの知識とデータの活用能力【専門性 2-3】	統計学や機械学習、データの収集・管理・解析など、データサイエンスの中心となる諸種の方法と理論を修得し、データを活用して現象の解明や社会課題の解決に応用する能力を身に付けている。
情報力	情報収集・分析・発信能力【情報力】	現象の解明や社会課題の解決のために、情報の収集と分析によって課題を整理し、的確に理解する能力、成果を効果的に発信する能力を身に付けている。	課題解決のプロセスをデザインする能力	持続可能な社会実現のため、多様な要因を考慮し、解決策を提示することができる。		
			情報収集・分析能力	情報を的確に収集し、データに基づいて適切に分析することができる。		
行動力 1	コミュニケーション能力【行動力 1】	様々な専門分野との学際的・国際的な協力をを行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けている。	情報活用・発信能力	先端的な工学の発展を担うため、情報のアップデートと品質管理を行い、データに基づいた判断を下し、また、成果を効果的に発信できる。		
			国際的視野	世界的水準で重要な事象を理解し議論できる。		
行動力 2	仕事の立案遂行及び総括能力【行動力 2】	創造的・計画的に仕事を進め、リーダーシップを発揮し、成果としてまとめる能力を身に付けている。	コミュニケーション能力	論理的かつ効果的な記述、口頭発表、討議ができる。		
			立案遂行能力	目標を設定し、チームが効果的かつ創造的に機能する計画を立案遂行できる。		
自己実現力	生涯に亘る学習能力【自己実現力】	自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けている。	チーム総括能力	チームをまとめ、協調的かつ包括的な仕事環境の構築ができる。		
			継続的学習能力	自主的、継続的に学習を続け、必要に応じて新しい知識や技能を取得及び活用できる。		

数理データサイエンスコースカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成方針

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系数理データサイエンスコースでは、ディプロマ・ポリシーを満足する人材を養成します。カリキュラムは、教養教育科目と専門教育科目で構成します。

教養教育科目は、社会人として幅広い知識を修得するための科目として設定しており、ある程度専門性を修得したうえで、専門性を生かすために有益となる幅広い知識を身に付けることができる高年次を対象とした科目も設けています。

専門教育科目は、特定の高度な知的及び技術的な専門分野を学ぶものとして、学部共通の専門基礎科目と、専門科目に分けており、専門科目はさらに系科目とコース科目に分けています。専門基礎科目は、各専門領域の基礎となる授業科目として位置付けており、工学の学問・研究に必要な基礎学力やグローバルな視点からの学際的な知識を身に付けるための科目を設定しています。系科目は系の共通科目で、各系の専門領域について知識と技術を修得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目です。コース科目では、系からさらに細分化された各コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるための科目を設定しています。

工学部の教育カリキュラムの特徴は、次の4点にあります。①SDGsを理解するためのSDGs科目を学部共通の教養教育科目の必修科目として履修します。②Society5.0実現のために必要不可欠な素養である数理・データサイエンス科目を、教養教育科目と専門教育科目の枠組みで、いずれも1年次に集中して履修します。③3年次にELSI(倫理的・法的・社会的な課題)教育のための科目を履修します。④大学院に進学する学生が博士前期課程の授業を4年次に先取り履修可能なシステムを設けています。

工学部工学科情報・電気・数理データサイエンス系数理データサイエンスコースでは、本コースディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるために、以下の方針により体系的な教育課程を編成しています。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標(SDGs)に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現に必要な、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次には知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次に高年次教養科目を設定しています。特に、教養教育科目の区分で開講するSDGs科目、「数理・データサイエンスの基礎」、高年次教養科目のELSI教育科目では、Society5.0 for SDGsの実現に必要な基礎的能力を身に付けます。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次の高年次教養科目を設定しています。特に、1年次の専門基礎科目の「工学安全

教育」, 2 年次以降のコース科目の演習や実習, 3 年次の高年次教養科目の ELSI 教育科目では, 工学系人材として不可欠な技術者・研究者倫理能力を身に付けます。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学, 自然科学及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けるために, 以下の科目を提供します。教養教育科目では, 1 年次にガイダンス科目, 1・2 年次に知的理解の区分で自然科学系科目, 3 年次に高年次教養科目を, 専門教育科目では, 1 年次に専門基礎科目 (専門英語は 3 年次に開講), 「数理・データサイエンス (発展)」を設定しています。また, 低学年次に開講する系科目では, 専門分野の基礎知識の活用能力を身に付けます。系科目のうち「技術表現法」, 「特別研究」, 「統計データ解析基礎」, 「数値計算法」を本コースの必修科目とします。

数理学の知識とその応用能力【専門性2-1】

データサイエンスの基礎となる数理学の方法と理論を修得し, 現象の解明や社会課題の解決に応用する能力を身に付けるために, 以下の専門科目を提供します。2 年次の前半には「微積分統論及び演習 1, 2」「線形代数統論及び演習 1, 2」により, 数理学の基礎を身に付けます。2 年次の後半からは, 解析学, 代数学, 幾何学に関連する数理学の理論と応用に関する選択科目を提供します。

計算科学の知識とコンピュータの活用能力【専門性2-2】

データサイエンスを強化する計算科学の方法と理論を修得し, コンピュータを活用して現象の解明や社会課題の解決に応用する能力を身に付けるために, 以下の専門科目を提供します。2 年次には「数理プログラミング」により, コンピュータの活用に必要なプログラミングの基礎技術を身に付けます。3 年次からは, 数理モデリング及び数値シミュレーション, 可視化などに関する選択科目を提供します。

データサイエンスの知識とデータの活用能力【専門性2-3】

データサイエンスの中心となる諸種の方法と理論を修得し, データを活用して現象の解明や社会課題の解決に応用する能力を身に付けるために, 以下の専門科目を提供します。2 年次には「統計データ解析演習」により, データ解析に必要なコンピュータの利用技術を身に付けます。さらに, 2 年次に「データ活用基礎」を, 3 年次に「データ活用実践演習」をそれぞれ提供します。また, 3 年次からは, 機械学習に関する必修科目, 統計学やデータの収集・管理・解析などに関する選択科目を提供します。

情報収集・分析・発信能力【情報力】

現象の解明や社会課題の解決のために, 情報の収集と分析によって課題を整理し, 解決した課題を効果的に情報発信する能力を身に付けるために, 以下の科目を提供します。教養教育科目では, 1・2 年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目, 汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目, 1 年次の「数理・データサイエンスの基礎」, 2 年次以降に専門科目の演習, 実習科目, 「技術表現法」を提供します。また, 2 年次の「データ活用基礎」, 3 年次の「データ活用実践演習」, 4 年次の「特別研究」では, 課題発見からデータの収集・管理・解析, 結論提示に至る一連の過程を学び, データサイエンスの技術に必要な情報力を身に付けます。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための, 論理的な記述力, 口頭発表力, 討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けるために, 以下の科目を提供します。教養教育科目では, 1・2 年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目, 汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目, 言語科目, 2 年次以降に専門科目の演習, 実習科目, 3 年次に「技術表現法」, 専門基礎科目で「専門英語」を提供します。また, 海外での語学研修, 海外留学やインターンシップ等のプログラムを提供します。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め, 成果をまとめる能力を身に付けるために, 2 年次以降に専門科目の演習, 実習科目, 4 年次に「特別研究」を提供します。

生涯に亘る学習能力【自己実現力】

自主的, 継続的に学習を続け, 持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けるために, 2 年次以降に専門科目の演習, 実習科目, 3 年次に高年次教養科目, キャリア関連科目を提供します。特に, 海外留学やインターンシップ等のプログラムの他, 正課外のボランティア活動等の機会を積極的に利用することを推奨します。また, 4 年次に「特別研究」を提供します。

その他

- ・各授業科目とディプロマ・ポリシーに掲げた能力の関係はシラバスに明示します。
- ・学生は 2 年次からコースごとに定められたカリキュラムで学習します。また, 4 年次から教育研究分野 (研究室) に配属します。
- ・3 年次及び 4 年次へ進級するためには, コースごとに定めた要件を満たす必要があります。
- ・ELSI 教育科目として高年次教養科目「工学倫理」を提供します。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

1 年次には教養教育科目と専門基礎科目を, 2 年次からコースに分かれて, 専門科目を中心に系科目とコース科目を履修します。3 年次には専門科目に加えて高年次教養科目を履修します。なお, 2 年次のコース分け後も, 他のコースの専門科目を履修することで幅広い知識が身に付けられるようになっていきます。4 年次には教育研究分野 (研究室) に配属され, ゼミナールと「特別研究」により課題発見と解決に取り組みます。授業科目は到達目標に応じて講義, 演習, 実習, 実験等により開講します。

3. 学習成果の評価方針

学習成果は, 授業の形態 (講義, 演習, 実習, 実験等) に応じて, 定期試験, レポート, 授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき, 到達目標の達成度を厳格に判定します。

情報・電気・数理データサイエンス系(情報工学コース, ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース, 数理データサイエンスコース)

コース名	科目区分	授業科目名	開講年次及び学期																1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位	
			1年次				2年次				3年次				4年次							
			1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期				
コース共通	専門基礎科目	必修	微分積分	○															2	10		
			線形代数	○																		2
			工学基礎実験実習	○																		2
			工学安全教育			○																1
			数理データサイエンス(発展)				○															1
			専門英語																○			2
		選択 注1)参照	物理学基礎(力学)			○															2	4 (8単位まで卒業要件単位とできる)
			物理学基礎(電磁気学)			○															2	
			プログラミング			○															2	
			微分方程式			○															2	
			化学基礎		○																2	
	生物学基礎			○														2				
	必修	技術表現法																○	1	11		
		特別研究																○	10			
	系科目	選択 注2)参照	統計データ解析基礎				○												2	4 (8単位まで卒業要件単位とできる)		
			フーリエ解析・ラプラス変換					○											2			
			数値計算法						○												2	
			情報理論							○											2	
			実践コミュニケーション論			○				○											2	

注1) 専門基礎科目の選択科目では、以下のとおりコース毎に推奨科目が設定されています。

	情報工学コース	ネットワーク工学コース	エネルギー・エレクトロニクスコース	数理データサイエンスコース
物理学基礎(力学)		○	○	
物理学基礎(電磁気学)		○	○	
プログラミング	○	○	○	○
微分方程式		○	○	○

注2) 系科目の選択科目では、以下のとおりコース毎に必修科目が設定されています。

	情報工学コース	ネットワーク工学コース	エネルギー・エレクトロニクスコース	数理データサイエンスコース
統計データ解析基礎	○			○
フーリエ解析・ラプラス変換		○	○	
数値計算法			○	○
情報理論	○	○		

2021, 2022年度入学生において、赤字のとおり学生便覧の修正があります。各自の学生便覧を加筆修正しておいてください。

情報・電気・数理データサイエンス系(ネットワーク工学コース)

コース名	科目区分	授業科目名	開講年次及び学期																1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位				
			1年次				2年次				3年次				4年次										
			1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期							
ネットワーク工学コース	必修	回路理論A																				2	20以上	45以上	
		データ構造とアルゴリズム																							2
		微分積分B																							1
		ネットワーク工学実験A																							2
		コンピュータネットワークA																							2
		UNIXプログラミング																							2
		キャリア形成																							1
		ネットワーク工学実験B																							2
	選択A	ベクトル解析(NE・EE)																					2		
		線形代数B																					1		
		論理回路																					2		
		電磁気学A																					2		
		回路理論B																					2		
		コンピュータ数学																					2		
		回路過渡解析																					2		
		電子回路A																					2		
		通信工学																					2		
		伝送線路																					2		
		複素解析																					2		
		電子物性工学基礎																					2		
		パルス・デジタル回路																					2		
		デジタル信号処理(NE・EE)																					1		
		電子計測																					2		
		電波工学																					1		
	インターンシップ(NE・EE)(長期)注1)																					2			
	インターンシップ(NE・EE)(短期)注1)																					1			
	選択B	画像工学																					2		
		コンピュータアーキテクチャ																					2		
		ネットワークプログラミング実験																					2		
		マルチメディア工学																					2		
		モバイル通信																					2		
		コンピュータネットワークB																					2		
		オブジェクト指向プログラミング																					2		
		セキュリティ概論																					2		
		セキュリティ実践論																					2		
		確率統計論																					2		
		グラフ理論(NE)																					2		
		ハードウェアセキュリティ実験																					1		
	情報化社会と技術																					2			
	他コース科目	電磁気学B																					2		
		電気機器学A																					2		
		電子回路B																					2		
電気機器学B																						2			
電子物性工学																						2			
電力・モータ実験																						2			
制御工学A																						2			
電力系統工学A																						2			
半導体・デバイス工学																						2			
オプトエレクトロニクス																						2			
電気電子材料学																						2			
制御工学B																						2			
電力系統工学B																						2			
パワーエレクトロニクス																						2			
電力発生工学																						2			
電気法規・施設管理																						2			
電気設計学																					2				
専門教育科目 計																		96							
合 計																		126							

注1) インターンシップ(NE・EE)(長期)およびインターンシップ(NE・EE)(短期)は繰り返し履修が可能であり、合わせて2単位までを卒業要件単位とする。

2021,2022年度 学生便覧 P.64の修正

2022年度入学生において、赤字のとおり学生便覧の修正があります。各自の学生便覧を加筆修正しておいてください。

情報・電気・数理データサイエンス系(数理データサイエンスコース)

コース名	科目区分	授業科目名	開講年次及び学期																1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位			
			1年次				2年次				3年次				4年次									
			1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期						
数理データサイエンスコース	専門教育科目	必修	微分積分統論及び演習1					○												2	6以上	18		
			微分積分統論及び演習2					○															2	
			線形代数統論及び演習1					○																2
			線形代数統論及び演習2					○																2
			数理プログラミング1					○																1
			数理プログラミング2					○																1
			統計データ解析演習1						○															1
			統計データ解析演習2							○														1
			データ活用基礎							○														2
			データ活用実践演習									○												2
		機械学習入門										○									2			
		選択A	ベクトル解析(数理)							○												2		
			複素関数論								○											2		
			離散数学入門								○											2		
			代数系の基礎									○										2		
			幾何学基礎										○									2		
			代数系の応用											○								2		
		選択B	常微分方程式と数理モデル								○											2		
			偏微分方程式とその応用										○									2		
			数理モデリング									○										2		
			非線形現象モデリング											○								2		
			数値シミュレーション基礎									○										2		
			数値シミュレーション応用										○									2		
			データ駆動計算基礎										○									2		
		データ駆動計算応用											○								2			
		選択C	数理統計学								○											2		
			ベイズ統計基礎											○								2		
			統計モデリング											○								2		
			最適化理論												○							2		
			多変量データ解析A										○									2		
			多変量データ解析B										○									2		
			計算統計学A											○								2		
			計算統計学B												○							2		
			確率モデル論										○									2		
		確率過程論入門												○							2			
		選択D	データ管理方法論										○									2		
			数理モデリング特論A 注1)参照										○									1		
			数理モデリング特論B 注1)参照											○								1		
			統計データ解析特論A 注1)参照											○								1		
			統計データ解析特論B 注1)参照												○							1		
			インターンシップ(長期) 注1,2)参照												○	○						2		
インターンシップ(短期) 注1,2)参照													○							1				
他コース科目	データ構造とアルゴリズム					○														2				
	パターン認識と学習						○													1				
	データベース										○									2				
	セキュリティ概論											○								2				
	画像処理								○											2				
専門教育科目 計																			96					
合 計																			126					

注1) 夏季集中講義として実施される

注2) インターンシップ(長期)およびインターンシップ(短期)は繰り返し履修が可能であり、合わせて2単位までを卒業要件単位とする。

2022年度 学生便覧 P.66の修正

2022年度入学生において、赤字のとおり学生便覧の修正があります。各自の学生便覧を加筆修正しておいてください。

情報・電気・数理データサイエンス系 卒業要件単位数

科目区分		履修要件		卒業要件単位数	
教養教育科目	ガイダンス科目	必修	2単位	30単位	
	知的理解	現代と社会	必修		2単位
		現代と生命	必修		2単位
		現代と自然	必修		4単位(内2単位はSDGs科目の単位を修得すること) (注)SDGs科目については工学部時間割表および授業科目読替表を参照のこと
		実践知			
	応用的技能と健康	芸術知			
		情報教育	必修		2単位
		数理・データサイエンス	必修		1単位
		キャリア教育			
	言語	健康・スポーツ科学			
アカデミック・ライティング					
英語		英語(スピーキング)*、英語(ライティング)*、英語(リーディング)*、英語(リスニング)*、英語(総合)*の計6単位は必修(*には、1, 2が入る) 上級英語、プレ上級英語、初修外国語の中から選択4単位 (注)留学生については履修外国語科目を個別に指定する			
初修外国語					
高年次教養	必修	2単位(注)他学部の高年次教養科目は卒業要件外となる。	3年次		
専門教育科目	専門基礎科目	必修	10単位	96単位	
	専門科目	選択	4単位以上(8単位まで)		
		系科目	必修		11単位
		選択	4単位以上(8単位まで) ※各コースに4単位の必修科目があります		
		情報工学コース科目	必修		43単位
		選択	16単位以上(カリキュラム表で指定されている他コース専門科目のうち最大6単位まで認める)		
		ネットワーク工学コース科目	必修		14単位
選択	45単位以上(選択Aより20単位以上、選択Bより20単位以上、他コース専門科目を最大7単位まで認める)				
エネルギー・エレクトロニクスコース科目	必修	14単位			
選択	45単位以上(選択Aより20単位以上、選択Bより20単位以上、他コース専門科目を最大7単位まで認める)				
数理データサイエンスコース科目	必修	18単位			
選択	41単位以上(選択Aより6単位以上、選択Bより4単位以上、選択Cより4単位以上、他コース専門科目を最大10単位まで認める)				
合計				126単位	

注1) 各コースのカリキュラム表(P.63~66)に記載されていない「他コース科目」の取り扱いについては、別途お知らせします。

情報工学コース
3年次実験(情報工学実験A・B・C)履修要件
 履修する年度の前年度末時点で、2年以上在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。ただし、この要件は3年次編入学生、3年次転系学生、3年次転コース学生には適用しない。
 ①専門教育科目の修得単位数が卒業要件単位中28単位以上であること。②教養教育科目と専門教育科目の合計修得単位数が卒業要件単位中58単位以上であること。

特別研究申請要件
 申請する年度の前年度末時点、または9月末時点で、3年以上(3年次編入学生、3年次転系学生、3年次転コース学生は情報工学コースに1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。
 ①専門教育科目の修得単位数が卒業要件単位中、72単位以上であること。②教養教育科目と専門教育科目の合計修得単位数が卒業要件単位中、108単位以上であること。③プログラミング演習1, 2および情報工学実験A, B, Cの全単位を修得していること。ただし、3年次編入学生、3年次転系学生、3年次転コース学生には、①及び②の単位数からそれぞれ20単位を控除し、また、③から情報工学実験A, B, Cの単位を除く。

ネットワーク工学コース
3年次実験(ネットワーク工学実験B)履修要件
 履修する年度の前年度末時点で、2年以上在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。ただし、この要件は3年次編入学生には適用しない。
 ①工学基礎実験実習、ネットワーク工学実験Aを修得していること。②専門教育科目の修得単位数が卒業要件単位中18単位以上であること。③卒業要件単位の修得単位数の合計が46単位以上であること。

特別研究申請要件
 申請する年度の前年度末時点、または9月末時点で、3年以上(3年次編入学生は1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。
 ①教養教育科目の修得単位数が卒業要件単位中、24単位以上であること。②工学基礎実験実習、ネットワーク工学実験A, Bを修得していること。③卒業要件単位の修得単位数の合計が108単位以上であること。ただし、3年次編入学生は100単位以上であること。

エネルギー・エレクトロニクスコース
3年次実験(エネルギー・エレクトロニクス実験B)履修要件
 履修する年度の前年度末時点で、2年以上在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。ただし、この要件は3年次編入学生には適用しない。
 ①工学基礎実験実習、エネルギー・エレクトロニクス実験Aを修得していること。②専門教育科目の修得単位数が卒業要件単位中18単位以上であること。③卒業要件単位の修得単位数の合計が46単位以上であること。

特別研究申請要件
 申請する年度の前年度末時点、または9月末時点で、3年以上(3年次編入学生は1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。
 ①教養教育科目の修得単位数が卒業要件単位中、24単位以上であること。②工学基礎実験実習、エネルギー・エレクトロニクス実験A, Bを修得していること。③卒業要件単位の修得単位数の合計が108単位以上であること。ただし、3年次編入学生は100単位以上であること。

数理データサイエンスコース
3年次演習(データ活用実践演習)履修要件
 履修する年度の前年度末時点で、2年以上在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。ただし、この要件は3年次編入学生には適用しない。
 卒業要件単位の修得単位数の合計が48単位以上であること。

特別研究申請要件
 申請する年度の前年度末時点、または9月末時点で、3年以上(3年次編入学生は1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。
 ①卒業要件単位の修得単位数の合計が98単位以上(うち専門教育科目の必修25単位以上)であること。②教養教育科目の修得単位数が卒業要件単位中、24単位以上(うち言語科目8単位以上)であること。③データ活用実践演習を修得していること。

他学部・他系履修について

- 他学部、他系の科目を履修する場合は、以下の条件を満たせば通算で6単位を限度としてコース科目の選択として取り扱うことがある。ただし、教員免許に係る「教育職員免許状取得のための教育学部の授業」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」は卒業要件外科目として取り扱う。
 ①コースの教育内容に関係の深い内容である。
 ②所属する系には似た内容の科目が開講されていない。
- 全学開放の専門教育科目のうち、工学部の他系の科目を履修する場合は、1. 他学部、他系の科目を履修する場合と同じ扱いとする。
- 他学部、他系の専門教育科目を履修する場合は、必ず願い出によりコース(コース未配属の場合は系)の承認を得て履修すること。

2022年度 学生便覧 P.67の修正

カリキュラムマップ(情報工学コース)

◎必修科目
○は推奨科目

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期
教養教育科目	①英語(総合)1,2 (各自指定された学期に、各学期科目ずつ履修)							
	②情報処理入門1 ③情報処理入門2							
専門基礎科目	④工学基礎実験実習							
	⑤部分積分							
	⑥線形代数							
	化学基礎							
系科目	⑦プログラミング演習1 ⑧システムプログラミング1							
	⑨データベース ⑩コンピュータハードウェア							
コア科目	⑪応用数学(情報)							
	⑫情報ネットワーク論 ⑬コンパイラ							
専門教育科目	⑭ソフトウェア設計 ⑮ソフトウェア言語							
	⑯画像処理 ⑰画像認識							
他講義科目	⑱情報工学実験A (ハードウェア)							
	⑲情報工学実験B (メタデータ処理)							
◎特別研究	◎特別研究	◎特別研究	◎特別研究	◎特別研究	◎特別研究	◎特別研究	◎特別研究	

(※)工学部SDGs科目として「SDGs:エネルギー・エントロピー」「SDGs:地球と環境」「SDGs:基礎地球科学(地球資源環境)」「SDGs:気象と気象」「SDGs:化学イノベーション」「SDGs:生命科学」「SDGs:生命科学」「SDGs:森林資源と木材利用」「SDGs:自然エネルギー・利用技術」「SDGs:循環型社会システム学」「SDGs:社会生活と材料工学」を示す

カリキュラムマップ(数理データサイエンスコース)

◎必修科目
○推奨科目
◎選択科目

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期
教養教育科目	◎山科大入門講座 ◎キャリア形成基礎講座 ◎情報処理入門 ◎情報処理入門2							
	◎英語(総合)1,2,英語(リスキニング)1,2,英語(リスキニング)1,2 (各自指定された学期に、各学期1科目ずつ履修) ◎情報系基礎5選入門 ◎情報システム5選入門 ◎工学基礎実習 ◎工学安全教育 ◎微分積分 ◎線形代数 物理学基礎(力学) 物理学基礎(電磁気学) 化学基礎 生物学基礎 ○プログラミング ○微分方程式							
専門基礎科目					◎統計学入門 基礎	○フーリエ解析・ ラプラス変換	◎数値計算法	◎情報理論
					◎微分積分 1 及び演習1	◎微分積分 2 及び演習2	◎ベクトル解析 (数値)	○複素関数論
系科目					◎線形代数 論 及び演習1	◎線形代数 論 及び演習2		
					◎微分方程式1 1	◎微分方程式2 2		
数理データサイエンスコース科目					◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論
					◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論
専門教育科目					◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論
					◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論
他講義科目					◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論
					◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論	◎代数学の基礎 と 数論

2科目選択必修

- ◎線形代数基礎
- ◎線形代数発展演習
- ◎化学・生物基礎

知的理解(現代と社会、現代と生命、現代と自然)
実践知・感性(実践知、芸術知)、汎用的技能と健康(情報教育、キャリア教育、健康・スポーツ科学、アカデミック・ライティング)
英語系科目・必修外国語系科目

必修科目を配置しない

※工学類SDGs科目として「SDGs: エネルギー・環境」、「SDGs: 地球と環境」、「SDGs: 基礎物理学(物性基礎演習)」、「SDGs: 気象と水気」、「SDGs: 化学イノベーション」、「SDGs: 生命科学」、「SDGs: 森林資源と木材利用」、「SDGs: 自然エネルギー・利用技術」、「SDGs: 循環型社会システム学」、「SDGs: 持続可能な消費生活と材料工学」を示す

授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
技術表現法	3年次 4学期 系科目 必修 1単位 わかりやすくしかも説得力のある文章を書き、また発表することは、理科系・文科系を問わず将来必要となるスキルである。本講義では、それぞれの分野でよく使われる文章を題材に選び、よりよい文章や図表の書き方、実験ノートやレポート・論文の書き方、口頭発表などプレゼンテーションの方法に関する基本技術を学ぶ。
特別研究	4年次 通年 系科目 必修 10単位 配属された研究室における教員の指導の下で、自主性、計画性を持って具体的な研究課題に取り組む。課題に関する理論・実験などを通じて、問題解決能力や課題探求能力を養うとともに、特別研究報告書を作成して自らの考えを明確に記述し表現する能力を養う。
統計データ解析基礎	2年次 1学期 系科目 選択 2単位 統計的データ解析の基礎的方法について講義する。具体的には、推定・検定の基礎についての復習、母平均・母分散・母比率の推定・検定、分散分析、相関・回帰分析などを取り上げる。
フーリエ解析・ラプラス変換	2年次 2学期 系科目 選択 2単位 理工学においては現象を数学的に表現して解析し、その本質を明らかにすることが大切である。授業では、フーリエ級数、フーリエ積分、フーリエ変換の基礎とその偏微分方程式への応用およびラプラス変換、単位関数、デルタ関数とその応用について述べ、演習により問題解決能力と応用力を養う。
数値計算法	2年次 3学期 系科目 選択 2単位 数値計算の基礎について講義する。具体的な内容は、精度と誤差、連立1次方程式の数値解法（消去法、反復法）、非線形方程式の解法（二分法、ニュートン法など）、1階単独常微分と1階常微分方程式系の数値解法（Euler法、Heun法、Runge-Kutta法など）などである。必要に応じてコンピュータ実習も行う。
情報理論	2年次 4学期 系科目 選択 2単位 確率論を基礎として、不確かさを有する情報の表現と定量化を行う。それらを応用することにより、情報伝送の効率化や信頼性の確保が可能になることを学ぶ。
実践コミュニケーション論	1・2年次 3・4学期 系科目 選択 2単位 「社会人基礎力」のうち「チームで働く力」を身につけるための産学連携かつ学部横断型の課題解決型学習（PBL）の手法による授業である。チーム活動を円滑に進めるための技法、協働して独創的な発想を生み出す技法などについて、基礎スキル学習とミニ演習を通じて修得する。さらに、経済学部と工学部の学生が混合したチームで課題に取り組み、岡山県内の企業経営者への発表等を通じて、社会人に求められるコミュニケーションのベースラインを体感する。
データ構造とアルゴリズム	2年次 1学期 コース科目（情報工学コース、ネットワーク工学コース） 必修 2単位 プログラミングの基礎となるデータ構造とアルゴリズムの基本概念、及びその具体的な記述について講義する。この講義では、待ち行列やリストなどの基本的なデータ構造、及び探索や整列を中心としたアルゴリズムを解説する。
回路理論A	2年次 1学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 必修 2単位 インピーダンスを用いた交流回路の記号的計算法を学び、回路方程式の立て方について学習する。これらと並行して宿題および演習によって回路計算に習熟する。
微分積分B	2年次 1学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 必修 1単位 工学分野の諸問題を取り扱う上で必要不可欠な多変数の微分法、および、積分法を取り扱う。1変数の場合の復習に加えて、具体的な計算問題を織り交ぜ、多変数関数の微積分の計算ができる能力を養う。
UNIXプログラミング	3年次 1学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 必修 2単位 UNIX系OSはインターネット上の多くのサーバやルータで使用されており、その操作方法およびその上でのプログラミング手法を修得することは電気通信分野の技術者にとって必要不可欠である。本講義ではまず、UNIX系OSにおけるファイル、ディレクトリ、シェル、プロセスの概念を講義する。その後、UNIX系OS上でのC++言語を用いたプログラミング手法を講義する。
キャリア形成	3年次 1・3・4学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 必修 1単位 基本的な教科を修得した上で、修得した技術が最先端分野においてどのように利用されているのか、また学生が将来どのような分野で活躍できるのかを、企業あるいは研究所の技術者の講演、文献の調査、及び討論を通して学習する。
ベクトル解析（NE・EE）	2年次 1・2学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 選択 2単位 自然現象を記述する量はベクトルで表現され、微分・積分によりその関係が記述されることが多い。講義では、力学や電磁気学への応用を念頭におき、ベクトル関数の時間や空間座標での種々の微分演算、曲線・曲面上での積分、ベクトルに関するいくつかの積分定理などを講義する。
線形代数B	2年次 2学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 選択 1単位 ベクトル・行列の演算を理解し、基本変形による連立1次方程式の計算、固有値と固有ベクトル、行列の三角化・対角化、2次形式の標準形などの基礎概念について講義と演習を行なう。
論理回路	2年次 2学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 選択 2単位 コンピュータや各種の信号処理回路はデジタル回路で構成されるが、これを論理レベル（0/1のレベル）の論理回路としてモデル化すると理解が容易になる。また、実用的な回路設計においても、論理回路としての規模の縮小が実際の回路規模の縮小に有効である。本講義では、まず、論理回路を扱うための準備として論理数学の基礎を修得し、論理関数の表現法を学ぶ。続いて、入力によって出力が決定する組合せ論理回路とその簡便化、さらに、状態をもち出力が状態に依存する順序論理回路とその簡便化について学ぶ。
電磁気学A	2年次 2学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 選択 2単位 電磁気学Aでは、静電磁界を中心に講義を行う。特に物質の誘電分極や磁気分極による効果を取り入れた電束密度や磁束密度の取り扱い、定常電流と磁界のより高度な取り扱い（ビオサバールの法則、アンペールの法則関連の詳論）などを学ぶ。講義中には演習問題を解くことも導入して法則の理解を助けるとともに実際の現象との関わりを講義する。
回路理論B	2年次 3学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 選択 2単位 電気現象が関わるシステムを数理的に理解するための基礎を学ぶために、一般線形回路網の取り扱い、グラフ理論、重ねの理などの種々の定理、二端子対回路網の表現法と解析法、ひずみ波交流、三相交流回路の計算法などについて講義する。
コンピュータ数学	2年次 3学期 コース科目（ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース） 選択 2単位 情報通信工学に関する学科目の基礎となるのは、自然現象など連続的物理モデルの解析的扱いではなく、整数など離散的数理モデルの代数的な扱いである。本講義では、整数の基本的性質を学び、集合や写像、命題論理に加えて重要な代数系に関する基礎を学ぶ。

回路過渡解析	2年次 4学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 演習・レポート問題を取り入れて、過渡現象について基本的な考え方や標準的な手法を学ぶ。ラプラス変換による解法も講述する。
電子回路A	2年次 4学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 ダイオードおよびトランジスタの動作とそれらの等価回路モデルを説明した後、アナログ電子回路の基礎となる、いくつかの基本的な増幅回路について、それらの構成と等価回路モデルを用いた直流および交流特性解析法を講述する。
通信工学	3年次 1学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 通信方式における伝送技術について、より深く理解することを目的とし、信号波の解析に必要なフーリエ級数展開及びフーリエ変換、アナログ変調技術として振幅変調と周波数変調を講述する。また、標準化と量子化の原理及びパルス符号変調について講述し、さらに実際の通信システムを構築する場合に必要な多重化技術について講述する。
伝送線路	3年次 1学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 同軸線路のような伝送線路は分布定数回路として考えねばならない。まず、分布定数回路の基礎を講ずる。次に、マクスウェルの方程式から伝送線路の電磁界と分布定数回路の電圧や電流との対応関係を把握する。それらを踏まえて、各種の伝送線路を含む回路を分布定数回路理論で取り扱う方法について修得する。
複素解析	3年次 1学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 変数を複素数まで拡張した微分可能な関数は、数学的に美しい性質をもち、その微分積分は、理工学のような分野に用いられている。講義では、そのような複素関数の性質、積分定理、実関数の定積分計算への応用など、関数論の基礎を講述する。
電子物性工学基礎	3年次 1学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 主として初等量子力学と、物性を学ぶための熱力学・統計力学の基礎を講述する。高校物理程度の前期量子論(物質の粒子性・波動性、原子内の電子の振舞い)を復習し、様々な条件下でのシュレーディンガー波動方程式の解法を学ぶ。さらに、熱力学・統計力学の基本的考え方と、自由エネルギー、フェルミ統計・ボーズ統計について概説する。
パルス・デジタル回路	3年次 2学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 パルス・デジタル回路は最先端の計算機、ネットワーク通信機器から家電製品まで広く応用され、今日の情報化社会を支える柱となっている。一見して複雑そうなデジタル機器も、実際には単純な動作をする構成要素の組み合わせで成り立っている。本講義は、基礎となる各構成要素の動作と解析法を取り扱い、応用力を養う。
デジタル信号処理(NE・EE)	3年次 2学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 1単位 デジタル信号処理は電気・通信はもとより、成分分析や制御における重要な技術である。まず離散信号系を定義し、離散信号の表現に習熟する。次に信号解析において広く利用される高速フーリエ変換の原理を学習する。離散時間係信号処理の基礎技術であるZ変換を学んだ後に、デジタル信号処理技術の基礎であるデジタルフィルタの設計法を修得する。
電子計測	3年次 2学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 電子計測は、電気磁気現象を利用して定量的な情報を得る操作であり、電気電子工学の基礎として不可欠なものである。しかし、電磁気学、電気回路学、電子回路などの知識が要求されるため学習には努力を必要とする。本講では測定論の基礎、主要電気計器の原理とその活用並びにデジタル計測システムについて講述する。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
電波工学	3年次 2学期 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 1単位 無線通信のシステムを理解するための基礎となる電波について、電磁気の延長としての電波とその振舞い、アンテナの考え方、大気中での電波伝搬特性などについて講述する。
インターンシップ(NE・EE)(長期)	3年次 休業期間中 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 2単位 10日以上企業に向かい産業社会の前線での業務を見聞・体験し、大学でこれまで学んだ専門知識があらゆる意味で基礎的なものであり、それがいかんかして応用されているかを認識する。実際の業務の中で各自が技術者として持つべき心構えを学び、今後の勉学のための参考とする。 繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。
インターンシップ(NE・EE)(短期)	3年次 休業期間中 コース科目(ネットワーク工学コース, エネルギー・エレクトロニクスコース) 選択 1単位 5~9日間企業に向かい産業社会の前線での業務を見聞・体験し、大学でこれまで学んだ専門知識があらゆる意味で基礎的なものであり、それがいかんかして応用されているかを認識する。実際の業務の中で各自が技術者として持つべき心構えを学び、今後の勉学のための参考とする。 繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。
グラフ理論(情報)	2年次 1学期 情報工学コース科目 必修 2単位 グラフとは集合の要素の間のある種の結び付きの状態を抽象化した概念であり、それについて研究するグラフ理論は、今日では計算機科学を含む広い分野の基礎理論として極めて重要になっている。授業は、諸定義の後、パスとサイクル、木の性質、グラフの平面性、彩色等、理論上および応用上重要と考えられる話題について講義する。
プログラミング演習1	2年次 1学期 情報工学コース科目 必修 1単位 本講義ではC言語そのものについて一通りの文法知識を持つ者を対象に、実用的なプログラムの作成を通して、実践的なプログラミングの演習を行う。その際、ポインタや構造体といった、C言語におけるデータ構造やファイル操作に関する項目、およびプログラム全体の組み立て方に重点を置く。
プログラミング演習2	2年次 2学期 情報工学コース科目 必修 1単位 本講義ではC言語そのものについて一通りの文法知識を持つ者を対象に、実用的なプログラムの作成を通して、実践的なプログラミングの演習を行う。その際、一般的によく利用されるアルゴリズムやデータ構造を使ったプログラミングの修得に重点を置く。
コンピュータハードウェア	2年次 2学期 情報工学コース科目 必修 2単位 コンピュータシステムのハードウェア構成技術の概要を述べ、その基本要素であるデジタル回路の構成技術について詳述する。特に、CMOS技術を中心に各種論理ゲートの構造と動作原理、特性について説明し、さらに記憶素子の基本構造と特性について説明する。
応用解析	2年次 2学期 情報工学コース科目 必修 2単位 計算機による数値計算のためのプログラミング技法とその数学的基礎について講述する。特に、計算と誤差(数値の表現、丸め誤差、桁落ち)、関数の近似(ラグランジュ補間)、数値積分(台形公式、シンプソン公式、ニュートン・コーツの公式、ガウスの積分公式)、非線形方程式(2分法、はさみうち法、ニュートン法)、連立1次方程式(クラメル公式、ガウス消去法、LU分解、反復法)について説明する。
オペレーティングシステム	2年次 3学期 情報工学コース科目 必修 2単位 オペレーティングシステム(OS)は、計算機を動作させる基盤ソフトウェアである。OSは、ハードウェアを制御し、効率的な利用を可能にしている。また、上位ソフトウェア(応用プログラム)の効率的な動作を支援する機能を実現する。本講義では、OSの機能や構造およびその背景にある基本的な概念を講述する。主な内容として、ハードウェアとソフトウェアの構成、開始・終了と障害対処、例外と割り込み、プログラム管理、プロセス管理、メモリ管理、プロセス間通信、入出力制御、ファイル管理を講義する。
コンピュータアーキテクチャI	2年次 3学期 情報工学コース科目 必修 2単位 コンピュータアーキテクチャの基本概念とそれを具現化するハードウェア技術について講述する。まず、コンピュータの概要と歴史、性能評価手法について解説し、さらに、アーキテクチャの基本である、機械語による命令表現とその動作、算術論理演算の方式について詳述するとともに、プロセッサの単純な実現方式について講義する。

科目名	授業要旨等
システムプログラミング1	2年次 3学期 情報工学コース科目 必修 1単位
	本講義では、C言語プログラミングとアセンブラプログラミング修得者を対象に、C言語とアセンブラの境界部分について講義を行う。C言語におけるヒープ、スタックの取り扱いと機械語との関係や、スコープルールとの関係、可変引数の取り扱いについて、実例を通して理解を深める。
システムプログラミング2	2年次 4学期 情報工学コース科目 必修 1単位
	本講義では、C言語プログラミングとアセンブラプログラミング修得者を対象に、C言語とアセンブラの境界部分について講義を行う。C言語におけるヒープ、スタックの取り扱いと機械語との関係や、スコープルールとの関係、可変引数の取り扱いについて、実例を通して理解を深める。
応用数学	2年次 4学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	信号処理やデータ解析に必要な数学について講述する。最小二乗法（データの表現、関数の表現）、直交関数展開（関数の近似、計量空間）、フーリエ解析（フーリエ級数、フーリエ変換）、固有値問題と2次形式（線形代数のまとめ、2次形式の標準形）、主軸変換とその応用（主成分分析、画像の基底）について解説する。
プログラミング技法	3年次 1学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	ソフトウェアの良し悪しは、設計の良さと、施工（記述方法）の良さによって大きく左右される。本講義では、ソフトウェア作成に重要な設計手法と、実際のコード記述の技法について講述する。主な内容として、設計と実装、スタイル、記法、テストとデバッグ、性能と移植性、国際化について講述する。
プログラミング言語	3年次 1学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	主要なプログラミングパラダイムである命令型言語、オブジェクト指向言語、論理型言語、関数型言語を概観し、関数型言語によるプログラミングの基礎を修得することを目標とする。
人工知能	3年次 1学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	人工知能は、人間のように知的な思考を行うシステムをコンピュータやロボットに持たせることを目指した学問領域の総称であり、非常に広い応用分野を持つ、発展途上の学問領域である。この講義では、人工知能の基礎的な話題である問題分解・解決、探索、プロダクションシステム、機械学習、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム、強化学習について、基本概念を講義する。
知識工学	3年次 1学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	知識工学は知識の表現、知識の利用、知識の獲得に関する学問である。人工知能で培われた記号推論技法の成果をもとにして、現実の複雑な問題の解決に適用することをめざすものである。本講義では、知識の表現と、知識の利用・応用について講述する。知識表現では、意味ネットワークやセマンティック Web を焦点に講義し、応用では統計的手法を取り入れた、決定木、ベイジアンネットワークを中心に講義する。具体的なデータから知識を抽出する方法について述べる。
情報工学実験A（ハードウェア）	3年次 1学期 情報工学コース科目 必修 3単位
	本実験では、コンピュータシステムのハードウェアに関する基本的な技術を扱う。コンピュータの中心部であるプロセッサの基本構造と動作原理を、論理回路に関する実験とプロセッサの設計を通して理解する。論理回路実験では、回路特性の測定法、組合せ論理回路、順序回路に関する実験を行なう。プロセッサ設計では、ハードウェア設計システム（CAD）を用いて簡単なプロセッサの設計と動作検証を行う。
ソフトウェア設計	3年次 3学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	ソフトウェア設計の概念を学んだ後、詳細設計の技法として、オブジェクト指向設計、デザインパターン、構造化設計等を説明し、その関連技術であるヒューマンインタフェース設計、設計メトリクス、要求分析、継続的インテグレーション等を説明する。さらには、ソフトウェア設計において考慮すべき脆弱性の問題やソフトウェアの保護技術について説明する。
情報ネットワーク論	3年次 3学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	計算機は通信路で結ばれ、インターネットに代表される通信網により、複数の計算機を利用した様々なサービスが実現されている。本講義では、計算機間の通信方式および通信網について講述する。主な内容として、イーサネット、TCP/IP プロトコルを例に取り上げながら、OSIモデル、通信の基本原則、通信規約（プロトコル）、交換方式、を講義する。
コンパイラ	3年次 3学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	プログラミング言語における基礎的な概念および形式化について述べ、プログラミング言語処理系の概要と構成・実装法を講述する。特に、高水準プログラミング言語で書かれたプログラムをアセンブリ言語/機械語のプログラムに変換する変換系（コンパイラ）における基本的な技術である文法解析、構文解析、意味解析、コード生成を中心に講述する。
情報工学実験B（メディア処理）	3年次 3学期 情報工学コース科目 必修 3単位
	応用数学や人工知能などの基礎理論を基盤として、現在の画像・音声などのマルチメディアを扱う実世界情報処理技術が確立されている。本実験では、画像処理実験、人工知能・音声処理実験を通して、数学理論や人工知能理論を応用した実世界情報処理技術の理解を深める。
並列分散処理	3年次 4学期 情報工学コース科目 必修 2単位
	分散処理のハードウェア構成とその基本構成について述べ、分散処理を実現している基盤技術について述べる。また、分散アルゴリズム、システム化技術、分散オブジェクト、メール、DNS、Web、およびクラウドなどで用いられている仮想化技術について説明する。さらに、スーパーコンピュータなどで用いられている並列処理とクラスター構成方式について説明する。
情報工学実験C（ソフトウェア）	3年次 4学期 情報工学コース科目 必修 3単位
	コンピュータシステムのソフトウェアに関する基本的かつ重要な技術として、計算機システムのネットワークに関する実験と手続き型プログラミング言語のコンパイラの作成実験を行う。計算機システムのネットワークに関する実験ではソケット通信を題材として、クライアント・サーバプログラム作成の実験を行い、計算機の通信処理の基礎を学習する。コンパイラの作成実験では、コンパイラの基礎となる理論、アルゴリズム、データ構造、プログラミング技法に関する理解を深める。
パターン認識と学習	2年次 3学期 情報工学コース科目 選択 1単位
	パターン認識とは画像や文書、音声から必要とする情報を獲得する技術である。学習によって人が作成した正解データから分類すべき特徴を自動で学習して、未知の入力から必要とする情報を取り出す。本講義では、基本的なモデルである最近傍法、パーセプトロン、バックプロパゲーション、情報源の分布を仮定する生成モデルや判別モデルについて基礎を中心に述べる。
計算機数学	2年次 3学期 情報工学コース科目 選択 1単位
	本講義では、情報工学の様々な分野の専門科目を学ぶ際に必要と考えられる、基礎的な計算機数学について講述する。具体的には、集合論、同値関係や順序関係などの二項関係、代数系として重要な群、環、体、束とブール代数などについて講述する。また、数論の初歩的知識にも簡単に触れ、それらが情報工学にどのように活用されているかを通じて理解を深める。
数理論理学	2年次 3学期 情報工学コース科目 選択 1単位
	近年の計算機科学、特にソフトウェア科学の分野において、問題や仕様といった情報のコンテンツを、シンタックスとセマンティクスが形式的に定義された言語で記述を与え、記号的に操作する技術が、基礎的な素養として重要である。ここではそのような技術の基礎となっている数理論理学の初歩的な話題について講義する。具体的な内容は、古典命題論理及び構文論、意味論、証明論である。

コンピュータアーキテクチャⅡ	2年次 4学期 情報工学コース科目 選択 2単位 コンピュータの高性能化を実現するための各種の構成方式について述べる。特に、プロセッサのパイプライン等の高度な制御方式による性能向上技術、キャッシュや仮想記憶などの記憶階層を利用した性能向上技術について述べるほか、マルチコア、マルチプロセッサによる並列処理技術について詳述する。また、各種の論理LSIとその設計技術の概要について説明する。
画像処理	2年次 4学期 情報工学コース科目 選択 2単位 本講義では、画像処理の基礎技術について講義する。まず、画像の撮影原理と画像処理技術の概要に述べ、2次元画像処理の基礎的技術であるフィルタリング、アフィン変換、領域抽出、画像符号化、周波数解析、動物体追跡について講義する。次に、画像を使って、3次元世界をコンピュータに取り込む3次元画像処理について講義する。まず、代表的な受動的3次元画像計測法であるステレオ視について講義する。また、能動的3次元画像計測法や、得られた3次元計測データを使った様々な応用技術について講義する。
論理設計	2年次 4学期 情報工学コース科目 選択 1単位 本講義では、デジタル回路を設計するために必要な基礎理論を体系的に学ぶ。具体的には、論理式とブール代数、論理関数、標準形、完全系、論理圧縮である。また、多くの演習を通じて応用力の養成を目指す。
オブジェクト指向言語	3年次 2学期 情報工学コース科目 選択 2単位 Java言語などにより、オブジェクト指向のプログラミングを学習する。オブジェクトの作成とメソッド呼び出し、処理の流れ、配列などに関して、概念や技術的な方法を紹介する。
データベース	3年次 2学期 情報工学コース科目 選択 2単位 データベースの必要性を説明し、その概念モデルとしてE-Rモデルを説明する。また、論理モデルとしてリレーショナルデータモデルとその設計方法を説明し、データベース言語であるSQLについて説明する。
情報セキュリティ	3年次 2学期 情報工学コース科目 選択 2単位 本講義では、安全な情報システムを構築するために必要なセキュリティについて講義する。具体的には、セキュリティの基礎概念を説明し、情報や情報システムを保護するために、必要となる技術やポリシーについても説明する。また、セキュリティ上の脅威や攻撃について説明し、防御方法についても説明する。
応用線形代数	3年次 2学期 情報工学コース科目 選択 2単位 線形代数は、パターン認識、大規模データ解析、機械学習をはじめとする情報工学のさまざまな分野の基礎となっている。本講義では、これらの分野への応用を意識した線形代数の講義を行う。専門基礎科目「線形代数」の内容を基に、行列に関する各種演算やベクトル空間におけるさまざまな概念について解説するとともに、それらの工学的応用を述べる。
オートマトンと言語理論	3年次 2学期 情報工学コース科目 選択 2単位 本講義では、(形式)言語の定義を述べ、有限オートマトン、文脈自由言語、ブッシュダウンオートマトン等の基本的な性質について講義する。オートマトンとは計算する機械のモデルであり、形式言語とは記号の集合(アルファベット)上の記号列の集合である。この2つの概念はともに相補い、計算の理論の豊かさを支える2大支柱である。
言語解析論	3年次 2学期 情報工学コース科目 選択 1単位 人間の話し言葉をコンピュータ上で処理する自然言語処理の基礎技術ならびに、応用処理を取り上げる。まず基礎技術として、チョムスキー階層、構文解析による文の構造化、時系列を学習する隠れマルコフモデル(HMM)、分散表現ベクトルについて述べる。これらの手法をもとに、文書を解析する手法について述べる。
インターンシップ(情報)(長期)	3年次 休業期間中 情報工学コース科目 選択 2単位 大学の講義は基礎的な専門知識を学ぶ上で必須であることは言うまでもないが、企業で一定期間(10日以上)就業体験を積むことも、将来技術者として実社会で活躍するためには有用である。この授業では、就業体験を通じて実際のものづくりや企業の研究開発の一端を垣間見ること、学内の講義では得難い知識や技術者としての心構えなどを学ぶ。 繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。
インターンシップ(情報)(短期)	3年次 休業期間中 情報工学コース科目 選択 1単位 大学の講義は基礎的な専門知識を学ぶ上で必須であることは言うまでもないが、企業で一定期間(5~9日間)就業体験を積むことも、将来技術者として実社会で活躍するためには有用である。この授業では、就業体験を通じて実際のものづくりや企業の研究開発の一端を垣間見ること、学内の講義では得難い知識や技術者としての心構えなどを学ぶ。 繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。
アルゴリズムと計算量	3年次 2学期 情報工学コース科目 選択 1単位 問題をコンピュータで処理する場合、問題の定式化、アルゴリズムの設計、コーディング、デバッグという手順を踏む。本授業科目の主目的は、アルゴリズムの設計と解析に関する基礎的事項を、具体例に基づきながら分かりやすく教授することである。その上、アルゴリズムの設計が計算資源に与える影響を解析するために必要な基礎的な知識と技法を身に付けることである。これらは、情報関連分野を志望する学生にとって、当該分野の諸問題への対処能力の向上に資するものである。
デジタル信号処理(情報)	3年次 3学期 情報工学コース科目 選択 2単位 計算機による音声や画像などの処理は、全てデジタル信号処理である。この講義では、フーリエ解析の基礎を修得していることを前提に、離散時間信号と離散時間システムの解析について学ぶ。線形時不変システム、標準化定理、z変換、デジタルフィルタなどが主な項目である。
ソフトウェア工学	3年次 4学期 情報工学コース科目 選択 1単位 ソフトウェア開発は個人で実施するのではなく、複数のプロフェッショナルが協調し、プロジェクトとして組織的に実施することを説明するとともに、ソフトウェアライフサイクルの主要工程、ソフトウェアプロセス、プロジェクト管理とその要素技術、品質保証、ソフトウェア開発の法的側面等を説明する。
映像メディア処理	3年次 4学期 情報工学コース科目 選択 1単位 映像メディア処理に関する基礎的技術と応用について講義する。まず、最近の映像メディア処理技術について概観し、画像特徴量やそれを使った3次元画像計測、画像修復などの各技術について講義する。また、近年様々な分野で大きな成果を挙げている深層学習とその応用について解説する。
情報化における職業1	3年次 4学期 情報工学コース科目 選択 1単位 情報化の技術背景と共にコミュニケーション力を取り上げ、これらに関わる職業観を示す。さらに職業倫理面における重要な考え方をまとめる。
情報化における職業2	4年次 2学期 情報工学コース科目 選択 1単位 「情報化における職業1」に引き続き、情報化の技術背景と共にコミュニケーション力を取り上げ、これらに関わる職業観を示す。また、ICTの社会展開について概観する。
ネットワーク工学実験A	2年次 3・4学期 ネットワーク工学コース科目 必修 2単位 情報通信に関する基礎科目を学習する上で助けとなる高校物理における電磁気学、回路理論に関する基本的な法則・現象の定性的な理解を深めるとともに、安全に対する心構えを学ぶ。
コンピュータネットワークA	2年次 4学期 ネットワーク工学コース科目 必修 2単位 コンピュータネットワークおよび階層型通信プロトコルの基本的な概念について講述したのち、インターネットの基礎的な技術として、誤り制御、イーサネット、IP (Internet Protocol)、TCP (Transmission Control Protocol)、UDP (User Datagram Protocol)、DNS (Domain Name System)、WWW (World Wide Web)等の概要を講述する。

科目名	授業要旨等
ネットワーク工学実験 B	3 年次 3・4 学期 ネットワーク工学コース科目 必修 2 単位
	電気・電子に関する基礎的現象・法則を実験的に理解し、通信システムで不可欠となる電気工学・電子工学に対する理解を深め、信号処理に関する基礎を修得する。
画像工学	2 年次 3 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	画像・映像における時空間信号の表現、それらに対する人間の知覚機能、多次元のフィルタリング・フーリエ変換に代表される代表的画像処理技術、カラー画像信号の取り扱いなどの基礎的技術を理解する。
コンピュータアーキテクチャ	3 年次 1 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	コンピュータの基本構造、プログラムの動作原理を理解することは、情報通信技術を学ぶ上できわめて重要である。これらの知識は、効率的なプログラムの作成に役立ち、問題解決に適したコンピュータの選択にも有効である。この講義では、CPU（中央処理装置）の動作原理、性能評価の指標、アセンブリ言語と機械語、演算回路、CPU のデータパス構成と制御について、典型的な実例を用いながら学ぶ。
ネットワークプログラミング実験	3 年次 1・2 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	衝突型の暗号解読攻撃プログラムの実装などによる暗号技術の安全性評価など、ネットワークプログラミングを通じて分散処理が必要となるような事象を具体的に考えたプログラミング演習を行う。
マルチメディア工学	3 年次 休業期間中 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	画像、音声、映像、テキストなど複数の表現媒体（メディア）を統合して扱うマルチメディアシステムが近年急速に発展・普及している。本講義では、特に映像、音声などの連続メディアを対象として取り上げ、そのデータ表現形式、マルチメディアシステムの構造やデータ処理技術、ネットワークにおけるメディアデータ伝送技術などについて解説する。
モバイル通信	3 年次 2 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	モバイル通信方式を構成する無線伝送技術、システム技術、ネットワーク技術の原理と概要の修得を目的とし、デジタル変復調技術、アクセス技術、移動通信における電波伝搬特性、セル構成法、無線リンク設計法、制御技術、今後のモバイル通信方式の動向について講述する。
コンピュータネットワーク B	3 年次 2 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	インターネットにおける基礎的な技術の中で、コンピュータネットワーク A で割愛した技術について講述するとともに、TCP (Transmission Control Protocol) の詳細と分散システムの概要について講述する。
オブジェクト指向プログラミング	3 年次 3 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	近年のアプリケーションプログラム開発において、オブジェクト指向型の開発手法が広く用いられている。本講義では、完全なオブジェクト指向性を備え、その拡張性および多態性が極めて高いプログラミング言語である Java 言語について講義し、演習を通してオブジェクト指向プログラミング手法への理解を深める。
セキュリティ概論	3 年次 3 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	安全・安心な情報通信を支えるデータの秘匿化やユーザ認証技術、ネットワークセキュリティ技術、などについて網羅的に講義する。
セキュリティ実践論	3 年次 3・4 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	まず、情報セキュリティ対策の重要性、必要性に関して広く認識を深める目的で、その背景、諸外国の取り組みなどを講義する。次に、政府機関等による情報セキュリティ対策の取組みや企業などの整備状況について講義する。一般社会で発生している事件・事故から情報セキュリティの脅威を確認しながら実践的理解を深める。
確率統計論	3 年次 4 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	工学全般において、何が起るか予測できない不確定な現象を取り扱うことが多い。例えば、同じ電圧を同じ条件の下で何回か測定しても、同じ電圧が得られるとは限らず、その測定値はばらついたものとなり得る。本講義では、このような現象（確率的現象）を工学的に扱う手段と測定データの統計的な処理方法について講述する。
グラフ理論 (NE)	3 年次 4 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	通信ネットワークのトポロジやプロトコルの設計・検証、通信経路やフロー制御の最適化などの問題を数学的に表現し、計算機による解析や解法（アルゴリズム）を与えるための手段であるグラフ理論を取り扱う。
ハードウェアセキュリティ実験	3 年次 休業期間中 ネットワーク工学コース科目 選択 1 単位
	情報セキュリティ技術を支える暗号技術のハードウェアへの実装と、暗号計算に対する物理的な攻撃による解読を体験し、攻撃原理とその防御のための基礎知識を学ぶ。
情報化社会と技術	4 年次 1・2 学期 ネットワーク工学コース科目 選択 2 単位
	情報通信技術、あるいは情報通信技術者が社会でどのような役割を果たしているかを議論し、これからの社会に対して与える影響を予測する。また、情報通信産業に固有な社会問題を取り上げ、その技術者の社会的責任と倫理について明らかにする。そのために重要となる、ネットワークセキュリティの基礎と応用を学ぶ。
電磁気学 B	2 年次 3 学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 必修 2 単位
	電磁気学 B では、電磁誘導の法則を含む電界・磁界（電場・磁場）の様々な現象とその関係をマクスウェルの電磁方程式を用いて学習する。電界・磁界の及ぼす力、磁気回路、電磁波の記述及び放射と吸収などについて講述するとともに、演習を行う。
エネルギー・エレクトロニクス実験 A	2 年次 3・4 学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 必修 2 単位
	電気電子工学に関する基礎科目を学習する上で助けとなる高校物理と電気・電子工学に関する基本的な法則・現象を実験により確認することで定性的な理解を深めるとともに、安全に対する心構えを学ぶ。
電気機器学 A	2 年次 4 学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 必修 2 単位
	電気機器には、磁気エネルギーを介して機械エネルギーと電気エネルギーとの相互変換を行う回転機と、磁気エネルギーを介して電気エネルギーの形態変換を行う変圧器がある。電気機器学 I では、電磁誘導を用いてエネルギー変換を行う変圧器、誘導電動機を系統的に講述する。 [備考] 本科目または電気機器学 B は電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
エネルギー・エレクトロニクス実験 B	3 年次 3・4 学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 必修 2 単位
	電気・電子・材料に関する基礎的現象・法則を実験的に理解し、電気工学・電子工学・通信工学に対する理解を深めるとともに、応用分野で必要となる電気信号の取り扱いに関する基礎を修得する。
電子回路 B	3 年次 1 学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2 単位
	電子回路基礎で学んだダイオードおよびトランジスタの動作と増幅回路の基礎をベースに、具体的なアナログ電子回路へ展開していく。すなわち、ダイオード応用回路、理想に近い特性のオペアンプを実現するための差動増幅回路などの各種構成回路、帰還増幅回路、発振回路および電源回路などに関して、それらの原理、動作、設計の基本に基づいて系統的に講述する。

科目名	授業要旨等
電力・モータ実験	3年次 休業期間中 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 電気工学に関する基礎的現象・法則を実験的に理解し、電気工学に対する理解を深める。さらに、電気機器学・制御工学・高電圧工学など、電気工学の応用分野で必要となる機器等の取り扱いに関する基礎を修得する。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
	3年次 1・2学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 本講義では、電気機器学 A に引き続き磁気エネルギーを介して電気・機械エネルギー変換を行なう同期機について系統的に講述する。同期機の特徴や特性にとどまらず、応用例などについても示す。磁気エネルギーを介して電気・機械エネルギー変換を行なう直流機について系統的に講述する。直流機の特徴や特性にとどまらず、同期機と直流機の類似点と相違点、応用例などについても示す。 [備考] 本科目、または電気機器学 A は電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
電子物性工学	3年次 2学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 電子物性工学では、電子物性工学基礎での概説をもとに、より専門的な内容に踏み込んで講義を行う。特に元素の周期律表に関わる原子の量子力学の概説、結晶構造の概説をもとにした固体の量子力学の初歩を学び、材料物性工学の基礎的知識を身につける。それをもとにして目視的な物性（金属・半導体・絶縁体など）がいかにして原子レベルの微視的な見方から理解できて、また導かれるかを実際の物質に即して講述する。
	3年次 3学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 制御工学の基礎である線形連続時間系について、ラプラス変換および逆変換法、ラプラス変換を用いた微分方程式の解法、ラプラス変換法に基づいた伝達関数の導出とブロック線図の構成法、ボード線図やベクトル軌跡法による周波数領域での特性解析および、制御システムの安定判別法の基礎を講述する。また、位相余有、ゲイン余有および周波数応答法や根軌跡法による制御系の設計について理解する。 [備考] 本科目または制御工学 B は電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
電力系統工学 A	3年次 3学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 発電所、変電所、線路などからなる電力系統の構成について述べるとともに、線路定数の取扱い、等価回路やベクトル図を用いた送電特性の解析、電力円線図の物理的意味、無効電力補償の必要性、安定度、架空送電線路などについて講述する。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
	3年次 3学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 半導体を用いた電子素子（デバイス）は、現在のエレクトロニクスにおいて中心的な役割を演じている。この講義は、半導体を様々なデバイスに応用するための基本を理解し、応用できる力を養うことを目的として、半導体の物性、電子状態、pn 接合、接合トランジスタ、MOS 構造、MOS トランジスタについて概説する。さらに、デバイスの動作原理と物理法則がどう関わっているかという観点から、半導体デバイス、半導体集積回路、などの電子デバイスの構造、動作、特性、などの概要を講述する。
オプトエレクトロニクス	3年次 3学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 光の光線の性質で説明できる屈折、反射と波動的性質から生まれる干渉、回折現象を理解し、その応用である光受動素子について学ぶ。その後、光学とエレクトロニクスが融合して発展したオプトエレクトロニクスにおける重要デバイスである、光導波路、光ファイバ、レーザ、受光素子について学ぶ。
	3年次 4学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 エレクトロニクスをはじめとする先端産業を支える各種電気電子材料の物性を、それを支配する基本的な物理学的原理・法則を用いて、電子、原子というマイクロな立場から説明し、さらに簡単なデバイスを含めて電気電子材料の応用について述べる。
制御工学 B	3年次 4学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 「制御工学 A」に引き続き線形連続制御系について、状態変数法によるフィードバック制御系のモデル化、応答特性の計算とリアプノフ関数を用いた制御系の安定定理を理解する。次に、現代のデジタル制御の基本となる線形サンプル値制御系の取り扱い方法について講述する。さらに、非線形制御系の取り扱いに関し、位相面軌跡法による特性解析と安定性解析について理解する。最後に、現代制御理論の概要を講述するとともに、最適レギュレータと状態観測器の設計と応用について理解する。 [備考] 本科目または制御工学 A は電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
	3年次 4学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 電力系統工学 A に引き続き、地中送電線路、配電線路、故障計算法、中性点接地方式と保護継電方式、電力系統の安定度の考え方、電圧と無効電力の制御法などについて講述する。
パワーエレクトロニクス	3年次 4学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 パワーエレクトロニクスは、電力用半導体素子を用いてエネルギーの変換・制御を行う分野で、省エネルギーのためのキーテクノロジーとなっている。本講義ではパワーエレクトロニクスの基礎として重要な整流回路、チョップ回路、インバータ回路の動作原理、応用例などを講述する。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
	4年次 1・2学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 日本のエネルギー消費量の約 40% は電気エネルギーの形態である。電力発生工学は発電に関する技術について、ソフトとハードの両面から開発改良するための学問である。授業では、電力発生システムの基本的な原理と構成、発電に対する安全確保の方策、および地球環境問題への取り組みと課題を学習する。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
電気法規・施設管理	4年次 1・2学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 電気は国民生活と経済にとって必要不可欠なエネルギーである。そのため需要家の利益を保護するとともに電気を供給する電気事業者の健全な発展を図る必要がある。また、電気は感電や漏電火災という危険な面もあるので、電気を供給する者、機器を製作する者、電気工事をする者に対して規制する必要がある。その法律の概要について講述するとともに、電気技術者の社会的責任についても言及する。また施設管理では、今まで講義を受けた各種発電所等電気施設の運営、保守、拡充について機能を合理的に発揮させるため、電気施設全体の管理運用について講述する。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
	4年次 1・2学期 エネルギー・エレクトロニクスコース科目 選択 2単位 静止器（変圧器）と回転機の種類と用途、原理と構造、規格、各種用語等について理解を深める。変圧器に使用する導電材料、磁性材料の選定法についても講述し、変圧器設計上考慮すべき諸現象（短絡インピーダンス、漂遊損失、電磁機械力、耐雷サージ、装荷配分等）を理解し、最適設計法について学ぶ。また、誘導機に使用する導電材料、磁性材料の選定法についても講述し、誘導機設計上考慮すべき諸現象（漏れリアクタンス、漂遊損失、電磁機械力、装荷配分等）を理解し、最適設計法について学ぶ。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。

科目名	授業要旨等
微分積分統論及び演習 1	2 年次 1 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 2 単位
	微分積分のより進んだ話題として、多変数関数の微分法について講述する。主な内容は、全微分可能性、合成関数の微分、Taylor の定理、極値問題である。応用に必要な力を養うとともに、数理的な論理展開の修得を目指す。適宜、問題演習とその解説を行うことにより、理解を深めることと、学んだ事柄の定着を図る。
微分積分統論及び演習 2	2 年次 2 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 2 単位
	微分積分のより進んだ話題として、多変数関数の積分法について講述する。主な内容は、重積分、累次積分、変数変換、広義積分である。応用に必要な力を養うとともに、数理的な論理展開の修得を目指す。適宜、問題演習とその解説を行うことにより、理解を深めることと、学んだ事柄の定着を図る。
線形代数統論及び演習 1	2 年次 1 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 2 単位
	線形代数のより進んだ話題として、ベクトル空間について講述する。内容は主に線形独立性、基底と次元、線形写像の核と像、線形写像の階数、部分ベクトル空間である。応用に必要な力を養うとともに、数理的な論理展開の修得を目指す。適宜、問題演習とその解説を行うことにより、理解を深めることと、学んだ事柄の定着を図る。
線形代数統論及び演習 2	2 年次 2 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 2 単位
	線形代数のより進んだ話題として、行列の性質について講述する。内容は主に固有値、行列の対角化、内積と外積、直交行列とユニタリ行列、グラム・シュミットの直交化法である。応用に必要な力を養うとともに、数理的な論理展開の修得を目指す。適宜、問題演習とその解説を行うことにより、理解を深めることと、学んだ事柄の定着を図る。
数理プログラミング 1	2 年次 1 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 1 単位
	初習プログラミング言語として Python を取り上げ、まずはその使い方に慣れるところから始める。プログラミング言語体系の基礎を修得することを目的として、できるだけ多くのプログラムを実際に作ることを重視する。特に、Python の基本的な文法、条件判断、繰り返し、関数、配列の使用方法をマスターすることを旨とする。
数理プログラミング 2	2 年次 2 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 1 単位
	「数理プログラミング 1」に引き続き、初習プログラミング言語として Python を取り上げる。プログラミング言語体系の基礎を修得することを目的として、できるだけ多くのプログラムを実際に作ることを重視する。数理科学のアルゴリズムが与えられたときに Python を用いて実現できるようにすることが目標である。
統計データ解析演習 1	2 年次 3 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 1 単位
	統計ソフトウェア R を利用して、データ解析の実際に触れる。情報科学と統計科学の両分野にまたがる知識を、演習を通して学ぶ。
統計データ解析演習 2	2 年次 4 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 1 単位
	「統計データ解析演習 1」に引き続き、統計ソフトウェア R を利用して、確率分布や標本分布についてのシミュレーション実験を通して統計理論を確かめる。情報科学と統計科学の両分野にまたがる知識を、演習を通して学ぶ。
データ活用基礎	2 年次 3 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 2 単位
	課題解決のためにデータをどのように活用するかを学ぶ。データサイエンスの分野で普及している PPDAC サイクル（課題の明確化、実験・調査の計画、データの収集、データの分析、結論付け）の各プロセスについて、具体的な事例を交えて講義する。
データ活用実践演習	3 年次 1 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 2 単位
	「データ活用基礎」の内容を受けて、グループワークによる演習を行う。具体的な課題を取り上げて PPDAC サイクルによる課題解決を行うという過程を実践する。
機械学習入門	3 年次 1 学期 数理データサイエンスコース科目 必修 2 単位
	統計的機械学習のための数学的基礎、ニューラルネットワークおよびサポートベクターマシンなどの機械学習の方法を講義する。
離散数学入門	2 年次 4 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	離散数の数学を学ぶために必要となる基礎事項について、代数系の初歩の紹介を交えながら、体系的に解説する。
ベクトル解析 (数理)	2 年次 3 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	微分積分、線形代数の延長として、ベクトル解析について講述する。まず、基礎として陰関数定理、条件付き極値問題を取り扱う。次いで平面におけるベクトル解析として、曲線の長さ、線積分、スカラー場の勾配、ベクトル場の発散、Green の公式について述べ、さらに 3 次元空間におけるベクトル解析として、ベクトルの外積、ベクトル場の回転、曲面積、曲面積分、Gauss の発散公式などについて述べる。
複素関数論	2 年次 4 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	複素関数は様々な自然現象を説明するのに不可欠であり、複素関数について学ぶことは数学や物理学などを学ぶ上での基盤となる。授業では理工学系専門科目の基礎を成す複素数および複素関数の理論について講義する。まず、複素数と複素平面、複素関数の微分、正則性について、そして、複素積分、コーシーの積分定理と積分公式、テイラー展開とローラン展開について説明する。また、留数定理を示すとともに、その応用として実定積分が計算できることを紹介する。
代数系の基礎	3 年次 1 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	代数系の理論を学ぶために必要となる基礎事項について、基本的な具体例を挙げながら、体系的に解説する。
代数系の応用	3 年次 3 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	代数系の理論の応用的側面について、必要となる基礎理論と代数的方法を整理しながら、具体的に解説する。
幾何学基礎	3 年次 2 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	幾何学の基礎概念と計算法について講義する。具体的には平面や 3 次元空間における曲線や曲面の基本的性質、対称変換や回転などの基本的な変換を取り上げる。
常微分方程式と数理モデル	3 年次 1 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	常微分方程式系の理論について解説し、その応用として、生態学に現れる数理モデルの解の性質の解析法を講述する。主な内容は、定数係数線形常微分方程式系、平衡点の安定性、非線形常微分方程式系の線形化、リアプノフ関数、マルサスモデル、ロジスティックモデル、ロトカ・ボルテラ捕食モデル、競争モデルなどである。
偏微分方程式とその応用	3 年次 3 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	拡散型の問題に現れる偏微分方程式を中心に、偏微分方程式の解法と応用について講述する。偏微分方程式の解法に関する主な内容は、保存系、変数分離法、方程式の変換、固有関数展開、積分変換などである。応用として、生物拡散の数理モデルなどについて説明し、その解析法についても述べる。
数理モデリング	3 年次 2 学期 数理データサイエンスコース科目 選択 2 単位
	諸現象を数式で表現する数理モデルについて、その概念と最も基本的な知識を導入する。線形かつ比較的シンプルな方程式系で記述される数理モデルを例とし、それらの数理モデル構成におけるアイデアと数式を通じた現象の理解について述べる。

科目名	授業要旨等				
非線形現象モデリング	3年次	4学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	数理モデルが非線形方程式系で記述される現象を取り扱う。非線形方程式系では線形方程式系の場合とは異なり、記述される現象が格段に複雑になり得ることを、例を通して説明する。また時間と環境が許せば、簡単な場合について実際に数値的に解軌道を求める演習も行う。				
数値シミュレーション基礎	3年次	1学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	自然現象の理解を深めるためには、現象をモデル化し、得られる方程式の解の性質を理解することが有効である。本授業では、プログラミング言語としてC言語を取り上げ、基本的な文法、条件判断、繰り返し、関数、配列、ファイル入出力を活用したプログラミングを行い、現象の数理モデルとしての写像や常微分方程式や簡単な偏微分方程式を数値的にシミュレーションするための基礎をマスターする。				
数値シミュレーション応用	3年次	3学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	自然現象の理解を深めるためには、現象をモデル化し、得られる方程式の解の性質を理解することが有効である。本授業では、非線形の偏微分方程式として代表的な「流れ」の方程式を取り上げ、多様な非線形の「流れ」の現象の数値シミュレーションの方法と数値解の性質について理解することを目的とする。				
データ駆動計算基礎	3年次	2学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	データ駆動型アプローチの基礎となる数学（各種最適化手法の基本原則）と計算手法を身につける。				
データ駆動計算応用	3年次	4学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	現象の理解と予測のため、観測データや大規模データから有益な情報を抽出するデータ駆動型の計算の基礎となる手法や考え方、および、現象の数値シミュレーションに実際の観測データを活用し、シミュレーションの予測能力を高めるデータ駆動型の計算技術について、応用例を挙げながら講義する。				
数理統計学	3年次	1学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	統計学の数理的基盤についての系統的な講義を行う。具体的には、確率変数・確率分布、平均・分散、積率母関数、独立・従属、共分散・相関、確率変数の和の分布などについて、微分・積分を用いて理論を構築する。さらに、諸種の統計量や推定量の分布の導出、最尤推定法などの諸種の推定方法、信頼区間や仮説検定の基礎理論について取り扱う。				
ベイズ統計基礎	3年次	4学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	統計的データ解析、機械学習などに広く応用されているベイズ統計の基礎事項について講義する。前半は共役事前分布のもとでの事後分布の導出など、後半は階層ベイズモデルとその推測、マルコフ連鎖モンテカルロ法の利用などを取り上げる。				
統計モデリング	3年次	3学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	線形回帰モデルから派生し、広く応用されている諸種の統計モデルについて講義する。Rによる解析方法も例示する。具体的には一般化線形モデル、混合効果モデル、スパース回帰モデルなどを取り上げる。				
最適化理論	3年次	3学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	統計データ解析においては、分析者が定式化したモデルに含まれるパラメータをデータから推定する必要がある。その際には最適化に関する理論が必要不可欠である。本講義では、統計データ解析で必要とされる最適化法について講義を行う。具体的には、凸集合や凸関数といった基本的な凸最適化の議論から出発して、Karush-Kuhn-Tucker条件などの最適性の条件について学習する。また、最適化の理論に基づいて最急降下法やニュートン法、準ニュートン法といった種々の最適化アルゴリズムについて学習する。				
多変量データ解析 A	3年次	2学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	多数の変数の間の関係を分析する多変量解析法について講義する。具体的には、回帰分析、判別分析、主成分分析、クラスター分析といった主要な多変量解析法の考え方や理論を理解する。一部、Rを用いた演習も行う。				
多変量データ解析 B	3年次	2学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	多変量データの基本的な解析方法であるクラスタリング法について講義を行う。対象間の類似度の定義から始めて、基本的な階層的クラスタリングの方法やk-means法、正規混合モデルによるクラスタリング、および、ベイズアプローチについて学習する。さらに、クラスタ数の決定方法やスペクトラルクラスタリングなどについても解説する。クラスタリング法に関連する事項を通して、統計的データ解析全般に必要な知識や技術を教授する。				
計算統計学 A	3年次	3学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	統計ソフトRを用いながら、統計的仮説検定や多変量解析法の理論や技法について理解を深める。また、空間統計学に関しても取り上げ、環境・疫学等に関連した実際の空間データを扱いながら、Rによる分析法および可視化法について実践する。				
計算統計学 B	3年次	4学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	テキストデータ、画像・音声・動画データ、インターネット上のデータなど、様々な種類のデータを処理して解析可能な形に数値化するための方法、さらには解析結果を可視化するための方法を講義する。				
確率モデル論	3年次	2学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	本講義は確率モデル論の入門講義である。確率空間等の基礎事項から極限定理等について解説する。また、ランダムウォークをはじめとする確率モデルを具体例を交えつつ紹介する。				
確率過程論入門	3年次	4学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	本講義は確率過程論の入門講義である。時間発展を伴う確率現象の基礎事項について解説する。また、ブラウン運動、ポアソン過程をはじめとする確率過程の性質を紹介する。				
データ管理方法論	3年次	2学期	数理データサイエンスコース科目	選択	2単位
	大規模なデータをどのように管理して活用するかを学ぶ。データベースやデータマネジメントについて、諸分野での具体的な事例を交えて講義する。				
数理モデリング特論 A	3年次	休業期間中	数理データサイエンスコース科目	選択	1単位
	数理モデリングの理論と応用に関する発展的内容を取り上げて講義し、特別研究における着想につなげる。				
数理モデリング特論 B	3年次	休業期間中	数理データサイエンスコース科目	選択	1単位
	数理モデリングや数値シミュレーションといった数理モデル型アプローチとデータ駆動型アプローチの融合分野に関係する発展的内容を取り上げて講義し、特別研究における着想につなげる。				
統計データ解析特論 A	3年次	休業期間中	数理データサイエンスコース科目	選択	1単位
	経済・金融データの解析に用いられる時系列解析の理論および応用方法について講義する。				
統計データ解析特論 B	3年次	休業期間中	数理データサイエンスコース科目	選択	1単位
	2値データの解析や生存時間データの解析など、医学・生物学の研究に応用される統計モデル、さらには医学研究のデザインについて講義する。				

授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
インターンシップ(長期)	<p>3年次 休業期間中 数理データサイエンスコース科目 選択 2単位</p> <p>10日以上企業に出向いて産業社会の前線での業務を見聞・体験し、大学でこれまで学んだ専門知識があらゆる意味で基礎的なものであり、それがいかんにして応用されているかを認識する。実際の業務の中で各自が技術者として持つべき心構えを学び、今後の勉学のための参考とする。</p> <p>繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。</p>
インターンシップ(短期)	<p>3年次 休業期間中 数理データサイエンスコース科目 選択 1単位</p> <p>1週間程度の期間を目安に企業に出向いて産業社会の前線での業務を見聞・体験し、大学でこれまで学んだ専門知識があらゆる意味で基礎的なものであり、それがいかんにして応用されているかを認識する。実際の業務の中で各自が技術者として持つべき心構えを学び、今後の勉学のための参考とする。</p> <p>繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。</p>

⑤ 化学・生命系

【ディプロマ・ポリシー,カリキュラム・ポリシー,授業科目,履修方法,授業要旨】

化学・生命系の学位授与と教育課程編成・実施の方針

応用化学コースディプロマ・ポリシー

工学部工学科化学・生命系応用化学コースは、分子や機能材料の創造、生産を通じて工業社会を支え、化学の力でエネルギー問題や地球環境問題などの解決に重要な役割を果たすことを使命とする。時代の変化と要求に柔軟に対応し、多種多様な諸問題を解決するために、最前線で活躍できるチャレンジ精神の旺盛な技術者・研究者を、化学、生命科学、工学が調和した教育プログラムと最先端の研究を通じた教育活動により養成する。

応用化学コースディプロマ・ポリシーはこの理念に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身に付けたものと認定し、学士（工学）の学位を授与する。

応用化学コース DP・コンピテンシー				
学部 DP	コース DP 要素	コース DP 詳述	コンピテンシー	コンピテンシー詳述
教養 1	多面的に考える素養と能力【教養 1】	持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のため、技術者・研究者として、今日的課題についての知識、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けている。	俯瞰的な課題把握と総合的な調査	今日的課題、多様な考え方、事実等に関し、意見や結論を述べるための俯瞰的な課題把握と総合的な調査をすることができる。
			多様性の理解と社会参加	持続可能な社会実現のため、多様な地域や文化を理解し、その中で活動することができる。
教養 2	技術者・研究者倫理【教養 2】	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けている。	技術者・研究者責任の理解	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任を理解し説明することができる。
			技術者・研究者倫理の理解	技術者・研究者としての倫理的責任を認識し説明することができる。
専門性 1	工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性 1】	数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けている。	数学の知的基盤	数学分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
			工学・自然科学の知的基盤	工学・自然科学分野に関する基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけ、整理することができる。
			情報・数理データサイエンスの知的基盤	情報・数理データサイエンス分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
専門性 2	化学・生命工学の専門基礎【専門性 2-1】	物理化学、無機化学、有機化学及び生化学とその関連領域に関する基礎知識を修得し、それらを問題解決に活用する能力を身に付けている。	化学・生命工学分野の基礎知識力	化学・生命工学分野の基礎知識を理解し、説明することができる。
			化学・生命工学分野の基礎知識の応用能力	化学・生命工学分野の基礎知識を課題解決へと応用することができる。
	応用化学の高度な専門知識と応用能力【専門性 2-2】	専門分野に関連する社会課題を発見・把握し的確に理解した上で、課題解決のための新しい化学技術を創出する能力を身に付けている。	社会課題を発見・把握する能力	応用化学分野に関連する諸課題を発見・把握することができる。
			課題解決のための新しい化学技術を創出する能力	応用化学分野の専門知識に基づいて、課題解決のための新しい化学技術を創出することができる。
情報力	社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】	先端的な工学の発展を担うため、社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、的確に理解する能力、成果を効果的に発信する能力を身に付けている。	情報収集・分析能力	情報を的確に収集し、データに基づいて適切に分析することができる。
			情報活用・発信能力	先端的な工学の発展を担うため、情報のアップデートと品質管理を行い、データに基づいた判断を下し、また、成果を効果的に発信できる。
行動力 1	コミュニケーション能力【行動力 1】	様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けている。	国際的視野	世界的水準で重要な事象を理解し議論できる。
			コミュニケーション能力	論理的かつ効果的な記述、口頭発表、討議ができる。
行動力 2	仕事の立案遂行及び総括能力【行動力 2】	創造的・計画的に仕事を進め、リーダーシップを発揮し、成果としてまとめる能力を身に付けている。	立案遂行能力	目標を設定し、チームが効果的かつ創造的に機能する計画を立案遂行できる。
			チーム総括能力	チームをまとめ、協調的かつ包括的な仕事環境の構築ができる。
自己実現力	生涯に亘る学習能力【自己実現力】	自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けている。	継続的学習能力	自主的、継続的に学習を続け、必要に応じて新しい知識や技能を取得及び活用できる。
			持続可能な社会へ貢献する能力	持続可能な社会を実現するために生涯に亘り自己を高めてゆける。

応用化学コースカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成方針

工学部工学科化学・生命系応用化学コースでは、ディプロマ・ポリシーを満足する人材を養成します。そのために、社会的ニーズの変化に対して、柔軟かつ速やかに対応できるよう、教育組織は工学科の1学科制とし、その下に系及びコースを設置することにより、従来の学科の枠にとられない分野横断的な履修を可能としています。カリキュラムは、教養教育科目と専門教育科目で構成します。

教養教育科目は、社会人として幅広い知識を修得するための科目として設定しており、ある程度専門性を修得したうえで、専門性を生かすために有益となる幅広い知識を身に付けることができる高年次を対象とした科目も設けています。

専門教育科目は、特定の高度な知的及び技術的な専門分野を学ぶものとして、学部共通の専門基礎科目と、専門科目に分けており、専門科目はさらに系科目とコース科目に分けています。専門基礎科目は、各専門領域の基礎となる授業科目として位置付けており、工学の学問・研究に必要な基礎学力やグローバルな視点からの学際的な知識を身に付けるための科目を設定しています。系科目は系の共通科目で、各系の専門領域について知識と技術を修得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目です。コース科目では、系からさらに細分化された各コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるための科目を設定しています。

工学部の教育カリキュラムの特徴は、次の4点にあります。①SDGsを理解するためのSDGs科目を学部共通の教養教育科目の必修科目として履修します。②Society5.0実現のために必要不可欠な素養である数理・データサイエンス科目を、教養教育科目と専門教育科目の枠組みで、いずれも1年次に集中して履修します。③3年次にELSI(倫理的・法的・社会的な課題)教育のための科目を履修します。④大学院に進学する学生が博士前期課程の授業を4年次に先取り履修可能なシステムを設けています。

工学部工学科化学・生命系応用化学コースでは、本コースディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるために、以下の方針により体系的な教育課程を編成しています。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標(SDGs)に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現に必要な、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次には知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次に高年次教養科目を設定しています。特に、教養教育科目の区分で開講するSDGs科目、「数理・データサイエンス(基礎)」、高年次教養科目のELSI教育科目では、Society5.0 for SDGsの実現に必要な基礎的能力を身に付けます。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次の高年次教養科目を設定しています。特に、1年次の専門基礎科目の「工学安全教育」、2年次以降のコース科目の演習や実習、3年次の高年次教養科目のELSI教育科目では、工学系人材として不可欠な技術者・研究者倫理能力を身に付けます。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学、自然科学及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解の区分で自然科学系科目、3年次に高年次教養科目を、専門教育科目では、1年次に専門基礎科目(専門英語は3年次に開講)、「数理・データサイエンス科目(発展)」を設定しています。また、低学年次に開講する系科目では、専門分野の基礎知識の活用能力を身に付けます。

化学・生命工学の専門基礎知識【専門性2-1】

化学・生命工学分野の基礎となる物理化学、無機化学、有機化学及び生化学とその関連領域に関する基礎知識を身につけるために、系専門科目として1・2年次に、「物理化学1・2」、「無機化学1・2」、「有機化学1・2」及び「生化学1・2」のほか、「化学工学1」や「高分子化学1」、「機器分析」などの講義を提供します。また、専門知識を問題解決に応用する能力を身につけるため、「化学・生命系実験1,2」などの実験科目を提供します。

応用化学の高度な専門知識と応用能力【専門性2-2】

応用化学分野に関する諸問題を発見・把握し、的確に理解する能力を身に付けるために、コース専門科目として2・3年次に、物理化学、無機化学、有機化学及び生化学に関する専門科目に加え、「化学工学2~4」や「無機工業化学」、「有機工業化学」などの講義及び「応用化学実験1・2」などの実験科目を提供します。さらに、専門知識の総合的応用能力と実践力を身に付けるため、4年次に「特別研究」や「特別演習」を提供します。

社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】

社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、解決した課題を効果的に情報発信する能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、1年次の「数理・データサイエンス科目(基礎)」、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に「技術表現法」、4年次に「特別研究」を提供します。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、言語科目、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に「技術表現法」、専門基礎科目で「専門英語」を提供します。また、海外での語学研修、海外留学やインターンシップ等のプログラムを提供します。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め、成果をまとめる能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、4年次に「特別研究」を提供します。

生涯に亘る学習能力【自己実現力】

自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に高年次教養科目、キャリア関連科目を提供します。特に、海外留学やインターンシップ等のプログラムの他、正課外のボランティア活動等の機会を積極的に利用することを推奨します。また、4年次に「特別研究」を提供します。

その他

- ・各授業科目とディプロマ・ポリシーに掲げた能力の関係はシラバスに明示します。
- ・学生は2年次からコースごとに定められたカリキュラムで学習します。また、3年次後半あるいは4年次から教育研究分野(研究室)に配属します。
- ・3年次及び4年次へ進級するためには、系ごとに定めた要件を満たす必要があります。

・ELSI 教育科目として高年次教養科目「工学倫理」を提供します。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

1年次には教養教育科目と専門基礎科目を、2年次からコースに分かれて、専門科目を中心に系科目とコース科目を履修します。3年次には専門科目に加えて高年次教養科目を履修します。なお、2年次のコース分け後も、他のコースの専門科目を履修することで幅広い知識が身に付けられるようになっていきます。3年次後半あるいは4年次には教育研究分野（研究室）に配属され、ゼミナールと「特別研究」により課題発見と解決に取り組みます。授業科目は到達目標に応じて講義、演習、実習、実験等により開講します。

3. 学習成果の評価方針

学習成果は、授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、到達目標の達成度を厳格に判定します。

生命工学コースディプロマ・ポリシー

工学部工学科化学・生命系生命工学コースは、遺伝子、タンパク質、細胞の研究や、それらを発展させた人工的な新機能生体素材の開発を通じて、食料問題や健康と医療、エネルギー問題、地球環境問題などの解決に重要な役割を果たすことを使命とする。時代の変化と要求に柔軟に対応し、最前線で活躍できるチャレンジ精神の旺盛な技術者・研究者を、化学、生命科学、工学が調和した教育プログラムと最先端の研究を通じた教育活動により養成する。

生命工学コースディプロマ・ポリシーはこの理念に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身に付けたものと認定し、学士（工学）の学位を授与する。

生命工学コース DP・コンピテンシー				
学部 DP	コース DP 要素	コース DP 詳述	コンピテンシー	コンピテンシー詳述
教養 1	多面的に考える素養と能力【教養 1】	持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現のため、技術者・研究者として、今日的課題についての知識、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けている。	俯瞰的な課題把握と総合的な調査	今日的課題、多様な考え方、事実等に関し、意見や結論を述べるための俯瞰的な課題把握と総合的な調査をすることができる。
			多様性の理解と社会参加	持続可能な社会実現のため、多様な地域や文化を理解し、その中で活動することができる。
教養 2	技術者・研究者倫理【教養 2】	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けている。	技術者・研究者責任の理解	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任を理解し説明することができる。
			技術者・研究者倫理の理解	技術者・研究者としての倫理的責任を認識し説明することができる。
専門性 1	工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性 1】	数学、自然科学、工学、及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けている。	数学の知的基盤	数学分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
			工学・自然科学の知的基盤	工学・自然科学分野に関する基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけ、整理することができる。
			情報・数理データサイエンスの知的基盤	情報・数理データサイエンス分野の基礎知識を修得し、これらの知識を技術的専門知識と関連づけることができる。
専門性 2	化学・生命工学の専門基礎【専門性 2-1】	物理化学、無機化学、有機化学及び生化学とその関連領域に関する基礎知識を修得し、それらを問題解決に応用する能力を身に付けている。	化学・生命工学分野の基礎知識力	化学・生命工学分野の基礎知識を理解し、説明することができる。
			化学・生命工学分野の基礎知識の応用能力	化学・生命工学分野の基礎知識を課題解決へと応用することができる。
	生命工学の高度な専門知識と応用能力【専門性 2-2】	専門分野に関連する社会課題を発見・把握し的確に理解した上で、課題解決のための新しいバイオテクノロジー技術を創出する能力を身に付けている。	社会課題を発見・把握する能力	生命工学分野に関連する諸問題を発見・把握することができる。
情報力	社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】	先端的な工学の発展を担うため、社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、的確に理解する能力、成果を効果的に発信する能力を身に付けている。	情報収集・分析能力	情報を的確に収集し、データに基づいて適切に分析することができる。
			情報活用・発信能力	先端的な工学の発展を担うため、情報のアップデートと品質管理を行い、データに基づいた判断を下し、また、成果を効果的に発信できる。
行動力 1	コミュニケーション能力【行動力 1】	様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けている。	国際的視野	世界的水準で重要な事象を理解し議論できる。
			コミュニケーション能力	論理的かつ効果的な記述、口頭発表、討議ができる。
行動力 2	仕事の立案遂行及び総括能力【行動力 2】	創造的・計画的に仕事を進め、リーダーシップを発揮し、成果としてまとめる能力を身に付けている。	立案遂行能力	目標を設定し、チームが効果的かつ創造的に機能する計画を立案遂行できる。
			チーム総括能力	チームをまとめ、協調的かつ包括的な仕事環境の構築ができる。
自己実現力	生涯に亘る学習能力【自己実現力】	自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けている。	継続的学習能力	自主的、継続的に学習を続け、必要に応じて新しい知識や技能を取得及び活用できる。
			持続可能な社会へ貢献する能力	持続可能な社会を実現するために生涯に亘り自己を高めてゆける。

生命工学コースカリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成方針

工学部工学科化学・生命系生命工学コースでは、ディプロマ・ポリシーを満足する人材を養成します。そのために、社会的ニーズの変化に対して、柔軟かつ速やかに対応できるよう、教育組織は工学科の1学科制とし、その下に系及びコースを設置することにより、従来の学科の枠にとらわれない分野横断的な履修を可能としています。カリキュラムは、教養教育科目と専門教育科目で構成します。

教養教育科目は、社会人として幅広い知識を修得するための科目として設定しており、ある程度専門性を修得したうえで、専門性を生かすために有益となる幅広い知識を身に付けることができる高年次を対象とした科目も設けています。

専門教育科目は、特定の高度な知的及び技術的な専門分野を学ぶものとして、学部共通の専門基礎科目と、専門科目に分けており、専門科目はさらに系科目とコース科目に分けています。専門基礎科目は、各専門領域の基礎となる授業科目として位置付けており、工学の学問・研究に必要な基礎学力やグローバルな視点からの学際的な知識を身に付けるための科目を設定しています。系科目は系の共通科目で、各系の専門領域について知識と技術を修得し、専門技術者としての素養を身に付けるための科目です。コース科目では、系からさらに細分化された各コースの専門領域についてより深い知識と技術を身に付けるための科目を設定しています。

工学部の教育カリキュラムの特徴は、次の4点にあります。①SDGsを理解するためのSDGs科目を学部共通の教養教育科目の必修科目として履修します。②Society5.0実現のために必要不可欠な素養である数理・データサイエンス科目を、教養教育科目と専門教育科目の枠組みで、いずれも1年次に集中して履修します。③3年次にELSI(倫理的・法的・社会的な課題)教育のための科目を履修します。④大学院に進学する学生が博士前期課程の授業を4年次に先取り履修可能なシステムを設けています。

工学部工学科化学・生命系生命工学コースでは、本コースディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるために、以下の方針により体系的な教育課程を編成しています。

多面的に考える素養と能力【教養1】

持続可能な開発目標(SDGs)に掲げられている多様性と包摂性のある社会の実現に必要な、多面的に物事を考える素養と能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次には知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次に高年次教養科目を設定しています。特に、教養教育科目の区分で開講するSDGs科目、「数理・データサイエンス(基礎)」、高年次教養科目のELSI教育科目では、Society5.0 for SDGsの実現に必要な基礎的能力を身に付けます。

技術者・研究者倫理【教養2】

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、技術者・研究者が社会に対して負っている責任などを理解し、技術者・研究者としての倫理能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解、実践知・感性、汎用的技能と健康、言語、3年次の高年次教養科目を設定しています。特に、1年次の専門基礎科目の「工学安全教育」、2年次以降のコース科目の演習や実習、3年次の高年次教養科目のELSI教育科目では、工学系人材として不可欠な技術者・研究者倫理能力を身に付けます。

工学系人材としての基礎知識の活用能力【専門性1】

数学、自然科学及び情報・数理データサイエンスに関する基礎知識の活用能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1年次にガイダンス科目、1・2年次に知的理解の区分で自然科学系科目、3年次に高年次教養科目を、専門教育科目では、1年次に専門基礎科目(専門英語は3年次に開講)、「数理・データサイエンス科目(発展)」を設定しています。また、低学年次に開講する系科目では、専門分野の基礎知識の活用能力を身に付けます。

化学・生命工学の専門基礎知識【専門性2-1】

化学・生命工学分野の基礎となる物理化学、無機化学、有機化学及び生化学とその関連領域に関する基礎知識を身につけるために、系専門科目として1・2年次に、「物理化学1・2」、「無機化学1・2」、「有機化学1・2」及び「生化学1・2」のほか、「化学工学1」や「高分子化学1」、「機器分析」などの講義を提供します。また、専門知識を問題解決に応用する能力を身につけるため、「化学・生命系実験1,2」などの実験科目を提供します。

生命工学の高度な専門知識と応用能力【専門性2-2】

生命工学分野に関する諸問題を発見・把握し、的確に理解する能力を身に付けるために、コース専門科目として2・3年次に、物理化学、無機化学、有機化学及び生化学に関する専門科目に加え、「遺伝子工学」や「蛋白質工学」、「分子生物学」などの講義及び「生命工学実験1・2」などの実験科目を提供します。さらに、専門知識の総合的応用能力と実践力を身に付けるため、4年次に「特別研究」や「特別演習」を提供します。

社会課題解決のための情報収集・分析・発信能力【情報力】

社会の要求に関し、情報の収集と分析によって課題を整理し、解決した課題を効果的に情報発信する能力を身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、1年次の「数理・データサイエンス科目(基礎)」、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に「技術表現法」、4年次に「特別研究」を提供します。

コミュニケーション能力【行動力1】

様々な専門分野との学際的・国際的な協力を行うための、論理的な記述力、口頭発表力、討議力等のコミュニケーションスキルを身に付けるために、以下の科目を提供します。教養教育科目では、1・2年次に実践知・感性の区分で実践・社会連携系科目、汎用的技能と健康の区分でアカデミック・ライティング系科目、言語科目、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に「技術表現法」、専門基礎科目で「専門英語」を提供します。また、海外での語学研修、海外留学やインターンシップ等のプログラムを提供します。

仕事の立案遂行及び総括能力【行動力2】

創造的・計画的に仕事を進め、成果をまとめる能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、4年次に「特別研究」を提供します。

生涯に亘る学習能力【自己実現力】

自主的、継続的に学習を続け、持続可能な社会の実現への取り組みを通して自己成長する能力を身に付けるために、2年次以降に専門科目の演習、実習科目、3年次に高年次教養科目、キャリア関連科目を提供します。特に、海外留学やインターンシップ等のプログラムの他、正課外のボランティア活動等の機会を積極的に利用することを推奨します。また、4年次に「特別研究」を提供します。

その他

- ・各授業科目とディプロマ・ポリシーに掲げた能力の関係はシラバスに明示します。
- ・学生は2年次からコースごとに定められたカリキュラムで学習します。また、3年次後半あるいは4年次から教育研究分野（研究室）に配属します。
- ・3年次及び4年次へ進級するためには、系ごとに定めた要件を満たす必要があります。
- ・ELSI教育科目として高年次教養科目「工学倫理」を提供します。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

1年次には教養教育科目と専門基礎科目を、2年次からコースに分かれて、専門科目を中心に系科目とコース科目を履修します。3年次には専門科目に加えて高年次教養科目を履修します。なお、2年次のコース分け後も、他のコースの専門科目を履修することで幅広い知識が身に付けられるようになっていきます。3年次後半あるいは4年次には教育研究分野（研究室）に配属され、ゼミナールと「特別研究」により課題発見と解決に取り組みます。授業科目は到達目標に応じて講義、演習、実習、実験等により開講します。

3. 学習成果の評価方針

学習成果は、授業の形態（講義、演習、実習、実験等）に応じて、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表など各科目のシラバスに明記された評価方法に基づき、到達目標の達成度を厳格に判定します。

化学・生命系(応用化学コース, 生命工学コース)

科目区分	授業科目		開講期												学生に履修指導をする 単位数及び履修方法			卒業要件単位	
			1年次				2年次				3年次～				必修 単位	選択 必修 単位	履修方法		
			1 学期	2 学期	3 学期	4 学期	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期					
導入教育	ガイダンス	学部ガイダンス科目	化学・生命系入門	○													1		2
		岡山大学入門講座		○													0.5		
		キャリア形成基礎講座		○													0.5		
	補習教育	高大接続科目		○	○														卒業要件外
知的理解	現代と社会	人文・社会科学系科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	「現代と自然」 の必修4単位 のうち、2単位 はSDGs科目 を修得するこ と。	8以上
	現代と生命	生命科学系科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2		
	現代と自然	自然科学系科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4		
		SDGs科目 注5) 参照				○	○										2		
実践知・感性	実践知	実践・社会連携系科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		0以上	
	芸術知	芸術系科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
汎用的技能と健康	情報教育	情報リテラシー系科目	情報処理入門1(情報機器の操作を含む)	○													1	3以上	
			情報処理入門2(情報機器の操作を含む)		○														1
			情報処理入門3(情報機器の操作を含む)			○													
		ICT(Information & Communication Technology)系科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	数理・データサイエンス	数理・データサイエンスの基礎				○											1		
		数理・データサイエンス科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	キャリア教育	キャリア教育・学生支援系科目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	スポーツ演習(する・みる・支える)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
アカデミック・ライティング	アカデミック・ライティング科目	注1) 参照																	
言語	英語	英語(スピーキング)ー1	注2) 参照												0.5	留学生について は言語を個 別に指定する	6		
		英語(スピーキング)ー2													0.5				
		英語(リーディング)ー1													0.5				
		英語(リーディング)ー2													0.5				
		英語(ライティング)ー1													0.5				
		英語(ライティング)ー2													0.5				
		英語(リスニング)ー1													0.5				
		英語(リスニング)ー2													0.5				
	英語(総合)ー1																	1	
	英語(総合)ー2																	1	
	ブレ上級英語		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	上級英語		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	初修外国語	A群	ドイツ語		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
フランス語				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
中国語				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
韓国語				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
B群		ロシア語	注4) 参照																
		スペイン語	注4) 参照																
イタリア語	注4) 参照																		
日本語	応用日本語		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			留学生のみ		
高年次教養	工学倫理														○	1	2科目を 選択必修	2	
	機械システム系概論														○				
	環境・社会基盤系概論														○				
	情報・電気・数理データサイエンス系概論														○				
教養教育科目 計																	30		

注1) アカデミック・ライティング科目の開講期は、年度の初めに公示する。

注2) 英語(スピーキング)ー1, 英語(スピーキング)ー2, 英語(リーディング)ー1, 英語(リーディング)ー2, 英語(ライティング)ー1, 英語(ライティング)ー2, 英語(リスニング)ー1, 英語(リスニング)ー2については、1年次の1学期から4学期のうち、各自指定された学期に、各学期2科目ずつ履修する。

注3) 初修外国語・A群における各科目の詳細な開講期は、年度の初めに公示する。

注4) 初修外国語・B群における各科目については、全学部生が履修できるとは限らないため、開講期は示さない。
各年度における開講の有無は、年度の初めに公示する。

注5) 「現代と自然」にあるSDGs科目については、工学部時間割表および授業科目読替表を参照のこと。

2021, 2022年度入学生において、赤字のとおり学生便覧の修正があります。各自の学生便覧を加筆修正しておいてください。

化学・生命系(応用化学コース, 生命工学コース)

コース名	科目区分	授業科目名	開講年次及び学期																1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位			
			1年次				2年次				3年次				4年次									
			1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期						
コース共通	専門基礎科目	必修	微分積分	○																	2	10		
		線形代数	○																					2
		工学基礎実験実習	○																					2
		工学安全教育			○																			1
		数理・データサイエンス(発展)				○																		1
		専門英語													○									2
	選択	物理学基礎(力学)			○																2	4単位を超えて修得した単位は、コース専門科目の選択の単位として認める	4 (8単位まで卒業要件単位として算入できる)	
	物理学基礎(電磁気学)			○																2				
	プログラミング			○																	2			
	微分方程式			○																	2			
	化学基礎		○																		2			
	生物学基礎			○																	2			
	必修	物理化学1	○																			2	34	
	有機化学1	○																				2		
	無機化学1			○																		2		
	生化学1			○																		2		
	化学・生命系実験1					○																1		
	物理化学2					○																2		
	有機化学2					○																2		
	無機化学2						○															2		
	生化学2						○															2		
	化学・生命系実験2									○												1		
	化学・生命系英語1										○											1		
	技術表現法													○								1		
	特別演習																			○		4		
	特別研究																				○	10		
	選択	分析化学					○															2	9単位を超えて修得した単位は、コース専門科目の選択の単位として認める	9
量子化学					○																2			
化学工学1								○													2			
工業材料1									○												2			
機器分析										○											2			
高分子化学1											○										2			
化学・生命系英語2												○									1			
機能分子化学													○								2			
インターンシップ(長期) 注2)																					2			
インターンシップ(短期) 注2)																					1			
実践コミュニケーション論				○					○												2			

注1) 専門基礎科目の選択科目における推奨科目は以下の通りコース毎に異なる。

- ・応用化学コース
化学基礎
- ・生命工学コース
化学基礎, 生物学基礎

注2) インターンシップ(長期)およびインターンシップ(短期)は繰り返し履修が可能であり、合わせて2単位までを卒業要件単位とする。

2021, 2022年度 学生便覧 P.88の修正

化学・生命系 卒業要件単位数

科目区分		履修要件		卒業要件単位	
教養教育科目	ガイダンス科目	必修	2単位	1年次	
	知的理解	現代と社会	必修	2単位	
		現代と生命	必修	2単位	
		現代と自然	必修	4単位 (内2単位はSDGs科目の単位を修得すること)	
	・実践性 ・感性	実践知			
		芸術知			
	汎用的技能と健康	情報教育	必修	2単位	1年次
		数理・データサイエンス	必修	1単位	1年次
		キャリア教育			
		健康・スポーツ科学			
言語	英語	英語(スピーキング)*, 英語(ライティング)*, 英語(リーディング)*, 英語(リスニング)*, 英語(総合)*の計6単位は必修(*には, 1, 2が入る)			
	初修外国語	プレ上級英語, 上級英語及び初修外国語科目から4単位以上を修得 (注) 留学生については履修外国語科目を個別に指定する			
高年次教養	必修	2単位 (注) 他学部の高年次教養科目は卒業要件外となる。	3年次		
専門教育科目	専門基礎科目	必修	10単位	14単位	
	専門科目	系科目	必修	34単位	43単位
			選択	9単位 (注2) 参照	
		応用化学コース科目	必修	10単位	39単位
			選択	2.9単位	
生命工学コース科目	必修	8単位			
	選択	3.1単位			
	TOEIC L&R が450点以上であること (GTECからの換算も可能である。)				
合計				126単位	

注1) 4単位を超えて修得した単位は, それらを除く4単位までについてコース専門科目の選択の卒業要件単位として数えることができる。

注2) 9単位を超えて修得した単位は, コース専門科目の選択の卒業要件単位として数えることができる。

3年次実験履修要件 [応用化学コース: 応用化学実験1・2, 生命工学コース: 生命工学実験1・2]

履修する年度の前年度末時点で, 2年以上在学しているとともに, 以下の基準をすべて満たすこと。

ただし, この要件は3年次編入学生には適用しない。

1. 工学基礎実験実習, 化学・生命系実験1, 2, および工学安全教育を修得していること。
2. 修得した卒業要件単位数の合計が60単位以上であること。

特別研究申請要件

申請する年度の前年度末時点, または9月末時点で, 3年以上(3年次編入学生は1年以上)在学しているとともに, 以下の基準をすべて満たすこと。

1. 修得した卒業要件単位数の合計が100単位以上であること。
2. 所属するコースの専門科目実験1, 2の単位を修得していること。
3. TOEIC L&R が400点以上であること。(GTECからの換算も可能である。)

他学部・他系・他コース履修について

1. 他学部, 他系, 他コースの科目を履修する場合は, 以下の条件を満たせば通算で8単位を限度としてコース科目の選択として取り扱うことがある。ただし, 教員免許に係る「教育職員免許状取得のための教育学部の授業」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」は卒業要件外科目として取り扱う。

①コースの教育内容に関係の深い内容である。

②所属する系には似た内容の科目が開講されていない。

2. 全学開放の専門教育科目のうち, 工学部の他系の科目を履修する場合は, 1. の他学部, 他系の科目を履修する場合と同じ扱いとする。

3. 他学部, 他系の専門教育科目を履修する場合は, 必ず願出によりコース(コース未配属の場合は系)の承認を得て履修すること。

カリキュラムマップ(応用化学コース)

◎必修科目
○任意科目

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期
教養教育科目	◎岡山大学入門講座 ◎キャリア形成基礎講座 ◎情報処理入門1 ◎情報処理入門2							
	◎英語(ペーパーテスト)1,2,基礎(50%)1,2,英語(50%)1,2,英語(リスニング)1,2,英語(リーディング)1,2 (各自前年度末の化学期に、各学期科目ずつ履修) ◎英語(総合)1,2 (各自前年度末の化学期に、各学期科目ずつ履修) ◎健康・安全・防災教育 ◎化学・生命系入門							
	◎工学基礎実習 ◎工学安全教育 ◎部分積分 ◎線形代数 ○化学基礎 物理学基礎(物理学) 物理学基礎(物理学) ○生物学基礎 フロクセンソング 微分方程式 ◎数学・データサイエンス(基礎)							
	◎化学・生命系基礎1 ◎物理化学2 ○量子化学 ◎無機化学2 ○分析化学 ◎生化学2							
	◎化学・生命系基礎2 ○化学工学1 ○工業材料1 ◎無機化学1 ○有機化学1 ◎生化学1							
	◎化学・生命系英語1 ○化学・生命系英語2 ◎技術長期法 ○機能分子化学 インターシップ							
	◎応用化学実験1 ○物理化学4 ○化学工学2 ○無機化学4 ○有機化学4 ○工業材料2 ○高分子化学2 ○生化学4							
	◎応用化学実験2 ○化学工学3 ○化学装置設計実習 ○無機工業化学 ○有機工業化学 ○工業材料3 ○高分子化学3							
	◎特別実習 ◎特別研究							
	専門教育科目	◎英語(総合)1,2 ◎健康・安全・防災教育 ◎情報処理入門1,2 ◎英語(ペーパーテスト)1,2,基礎(50%)1,2,英語(50%)1,2,英語(リーディング)1,2,英語(リスニング)1,2,英語(総合)1,2 (各自前年度末の化学期に、各学期科目ずつ履修) ◎健康・安全・防災教育 ◎化学・生命系入門 ◎工学基礎実習 ◎工学安全教育 ◎部分積分 ◎線形代数 ○化学基礎 物理学基礎(物理学) 物理学基礎(物理学) ○生物学基礎 フロクセンソング 微分方程式 ◎数学・データサイエンス(基礎)						
◎化学・生命系基礎1 ◎物理化学2 ○量子化学 ◎無機化学2 ○分析化学 ◎生化学2								
1人科目	◎化学・生命系基礎2 ○化学工学1 ○工業材料1 ◎無機化学1 ○有機化学1 ◎生化学1							
	◎化学・生命系英語1 ○化学・生命系英語2 ◎技術長期法 ○機能分子化学 インターシップ							

2科目選択必修

必修科目を記載しない

(※)工学部SDGs科目:IT[SDGs:エネルギー・エントロピー]、「SDGs:地球と環境」[SDGs:気象と水資源]、「SDGs:基礎地球科学(物質循環環境)」[SDGs:気象と水資源]、「SDGs:化学/バイオ」[SDGs:化学/バイオ]、「SDGs:森林資源と材料利用」[SDGs:自然エネルギー・利用技術]、「SDGs:循環型社会システム学」[SDGs:循環型社会システム学]、「SDGs:社会生活と材料工学」[SDGs:社会生活と材料工学]を示す

カリキュラムマップ(生命工学コース)

◎必修科目
○特選科目
◎選択科目
○特選科目

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次			
	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期
教養教育科目	◎岡山大学入門講座 ◎キャリア形成基礎講座 ◎情報処理入門1 ◎情報処理入門2															
	実践知・感性(実践知,芸術知),応用的技能と健康(情報教育,キャリア教育,健康・スポーツ科学,アガリミソク・ライティング) 英語系科目・初修外国語系科目															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
	◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) ◎英語(総合1・2,基礎1・2,基礎2) (各自指定された学期に各学期科目ずつ履修)															
専門基礎科目	◎化学・生命系入門															
	◎工学基礎実験実習 ◎工学安全教育															
	◎微分積分 ◎線形代数															
	物理学基礎(工学) 物理学基礎(基礎系)															
	◎化学基礎															
系科目	◎物理化学1															
	◎化学・生命系実験1 ◎物理化学2															
	◎量子化学 ◎無機化学1															
	◎有機化学1															
	◎分析化学 ◎生化学2															
	◎高分子化学1															
	◎無機分子化学															
	インターンシップ															
	◎生化学実験1															
	◎物理化学3															
「1」科目	◎生化学2															
	◎生化学3															
	◎生化学4															
	◎生化学5															
	◎生化学6															
	◎生化学7															
	◎生化学8															
	◎生化学9															
	◎生化学10															
	◎生化学11															

(※)工学部SDGs科目として「SDGs:エネルギー・エントロピー」「SDGs:地球と環境」「SDGs:基礎地球科学(物質基礎環境)」「SDGs:気象と水資源」「SDGs:化学イノベーション」 「SDGs:生命科学」「SDGs:生命科学」「SDGs:森林資源と木材利用」「SDGs:自然エネルギー・利用技術」「SDGs:循環型社会システム学」「SDGs:社会生活と材料工学」を提示

必修科目を記載しない
必修科目を記載しない

授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
無機化学 1	1 年次 3・4 学期 系科目 必修 2 単位 無機化学は 100 あまりの元素を扱う。その中には反応性に富むアルカリ金属から貴金属である金まであり、また気体では反応性の高いフッ素から不活性な希ガスまでが含まれる。ここでは、さまざまな物質の特性を支配する化学結合の本質について理解を深めることを目標とする。具体的には、分子、固体を対象として、分子の構造、分子の形、固体の構造と性質、固体の特性について理解を高める。
	1 年次 1・2 学期 系科目 必修 2 単位 熱力学の基礎について講述する。具体的には、熱力学の第一～三法則と、内部エネルギー、エンタルピー、熱容量、エントロピー、自由エネルギーなど基本事項の定義を学ぶ。また、それを用いて熱的な現象がどのように捉えられ、体系化されているのかを理解する。さらに、エンタルピー、エントロピー、自由エネルギーにより、熱的な現象を表現し解析する方法を身につける。
物理化学 1	1 年次 1・2 学期 系科目 必修 2 単位 本講義では、有機化学の基礎的な内容、特に学ぶうえで必要な様々な学術用語を英語と日本語で理解することに重点をおく。主な内容は、有機化合物の構造と結合、Lewis 構造式の書き方、分子の極性、酸と塩基、鎖状・環状有機分子の形と立体化学の概念などである。講義と連動して演習を随時行い、理解を深めるように進める。
	1 年次 3・4 学期 系科目 必修 2 単位 生化学は、分子を通して生命現象を化学的に理解する学問である。その理解のため、本科目では、核酸やタンパク質を中心とした生体の主要構成成分の構造と化学的な性質について述べる。
化学・生命系実験 1	2 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 化学・生命系で学ぶ基本的な実験課題として、中和滴定や無機イオンの定性分析、比色分析を取り上げ、基礎的な実験技術や方法を身に付けるとともに、実験を計画・実行し、レポートにまとめる力を養う。また、実験を安全に行うための知識と能力を身に付ける。
	2 年次 4 学期 系科目 必修 1 単位 化学・生命系が対象とする種々の現象や原理および技術の修得と応用を目的として、生化学、物理化学、有機化学、無機化学を基礎とする種々の実験演習を行う。具体的には、植物組織からの遺伝子やタンパク質の抽出・定量、反応速度の測定および解釈、いくつもの固体材料の構造解析および物性評価、種々の骨格構造および官能基を有する化学物質の合成と分離を行う。実験の意図から結果の解釈・解析まで、いかにして明快かつ正確に文書にまとめるかについても適宜指導する。
化学・生命系実験 2	2 年次 2 学期 系科目 必修 2 単位 無機化学を理解する基礎となる「酸と塩基」、「酸化と還元」について学習する。「酸と塩基」の考え方の理解は、無機化合物を構成する配位結合の理解の原点となる。そして、主要な化学反応のひとつである「酸化と還元」は、工業的に極めて重要であり、将来のエネルギー問題を考える基礎となる。
	2 年次 1 学期 系科目 必修 2 単位 まず、ギブスの自由エネルギーの温度や圧力に対する依存性について講述する。その上で、反応の平衡、反応進行度や溶液の熱力学的取り扱いについて学び、さらに相平衡や束一的性質を理解して基礎となる理論や考え方を身につける。
無機化学 2	2 年次 1 学期 系科目 必修 2 単位 本講義では、有機化合物の立体化学、ハロゲン化アルキルの求核置換反応や脱離反応を学ぶ。さらには、アルコール、エーテル、エポキシドについて学ぶ。講義と連動して演習を随時おこない、理解を深めるように進める。
	2 年次 2 学期 系科目 必修 2 単位 遺伝子の複製、転写、蛋白質への翻訳機構を分子レベルで学習し、「分子生物学のセントラルドグマ」への理解を深める。さらに、DNA の修復や組み換え機構についても学ぶ。本講義は、遺伝子組換え技術を用いるバイオテクノロジーを修得するための基礎となる。
物理化学 2	2 年次 1・2 学期 系科目 選択 2 単位 分析化学の基礎となる酸塩基平衡や錯生成平衡等を解説すると共に、演習問題等により分析化学における初歩的な計算に習熟する。また、実際の滴定における指示薬の選択および滴定誤差について適切に処理できるようにする。化学生命系実験 1 と連動して実習も学ぶ。
	2 年次 1・2 学期 系科目 選択 2 単位 原子や分子の世界における電子の振る舞いがどのようなものであるかを量子論に基づき解説する。量子化学の考え方のイメージをつかむこと、分子の形と軌道やそのエネルギーとの関係を通じて、数式の展開と導出を軸に説明する。次いで、多電子原子から二原子分子のシュレディンガー方程式を解き、分子軌道のかたち、軌道エネルギーからわかる分子の性質（分光学的特性を含む）を学ぶ。
有機化学 2	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 実験室で発見、あるいは作られた物質（化学物質、医薬品、食品）を工業生産に移すためには、製造・操作条件の最適化、新規なプロセスの開発、量論や収支および移動現象論に基づいた装置設計を行う必要がある。本講義では、物質・エネルギー収支を含む化学工学量論、熱・物質・運動量の移動現象論に関する専門基礎知識を修得し、それらを問題解決に利用できる能力を修得させる。
	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 化学プロセスでよく用いられる、金属材料、高分子材料を中心に、材料のもつ様々な特性を修得するとともに、材料のもつ様々な巨視的（マクロな）現象や性質を、材料の微視的（ミクロな）構成要素（例えば原子・分子）の挙動から理解できる知識を修得する。また、化学装置で特に重要なステンレス鋼については、その耐食性発現のメカニズムを理解する。
生化学 2	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 有機化合物の構造を調べるための核磁気共鳴（NMR）、赤外分光分析（IR）、および有機化合物・生体材料・有機材料の純度（LC、GC）、分子量（MS）、光学的性質（UV、蛍光）、熱的性質（TGA、DSC）、微細構造（光学・電子・走査型プローブ顕微鏡）を調べるための各種機器分析の原理およびそれらから得られる情報の取り扱いについて概説する。
	3 年次 1 学期 系科目 選択 2 単位 高分子についての概念、化学構造の特徴、基本的な重合方法と得られる高分子の特徴、高分子の分子量に関する特徴とその測定方法、溶液中での高分子の広がりや溶液粘度など高分子に関する基礎について理解する。
分析化学	3 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
	3 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
量子化学	2 年次 1・2 学期 系科目 選択 2 単位 原子や分子の世界における電子の振る舞いがどのようなものであるかを量子論に基づき解説する。量子化学の考え方のイメージをつかむこと、分子の形と軌道やそのエネルギーとの関係を通じて、数式の展開と導出を軸に説明する。次いで、多電子原子から二原子分子のシュレディンガー方程式を解き、分子軌道のかたち、軌道エネルギーからわかる分子の性質（分光学的特性を含む）を学ぶ。
	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 実験室で発見、あるいは作られた物質（化学物質、医薬品、食品）を工業生産に移すためには、製造・操作条件の最適化、新規なプロセスの開発、量論や収支および移動現象論に基づいた装置設計を行う必要がある。本講義では、物質・エネルギー収支を含む化学工学量論、熱・物質・運動量の移動現象論に関する専門基礎知識を修得し、それらを問題解決に利用できる能力を修得させる。
化学工学 1	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 化学プロセスでよく用いられる、金属材料、高分子材料を中心に、材料のもつ様々な特性を修得するとともに、材料のもつ様々な巨視的（マクロな）現象や性質を、材料の微視的（ミクロな）構成要素（例えば原子・分子）の挙動から理解できる知識を修得する。また、化学装置で特に重要なステンレス鋼については、その耐食性発現のメカニズムを理解する。
	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 有機化合物の構造を調べるための核磁気共鳴（NMR）、赤外分光分析（IR）、および有機化合物・生体材料・有機材料の純度（LC、GC）、分子量（MS）、光学的性質（UV、蛍光）、熱的性質（TGA、DSC）、微細構造（光学・電子・走査型プローブ顕微鏡）を調べるための各種機器分析の原理およびそれらから得られる情報の取り扱いについて概説する。
工業材料 1	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 有機化合物の構造を調べるための核磁気共鳴（NMR）、赤外分光分析（IR）、および有機化合物・生体材料・有機材料の純度（LC、GC）、分子量（MS）、光学的性質（UV、蛍光）、熱的性質（TGA、DSC）、微細構造（光学・電子・走査型プローブ顕微鏡）を調べるための各種機器分析の原理およびそれらから得られる情報の取り扱いについて概説する。
	3 年次 1 学期 系科目 選択 2 単位 高分子についての概念、化学構造の特徴、基本的な重合方法と得られる高分子の特徴、高分子の分子量に関する特徴とその測定方法、溶液中での高分子の広がりや溶液粘度など高分子に関する基礎について理解する。
機器分析	2 年次 3・4 学期 系科目 選択 2 単位 有機化合物の構造を調べるための核磁気共鳴（NMR）、赤外分光分析（IR）、および有機化合物・生体材料・有機材料の純度（LC、GC）、分子量（MS）、光学的性質（UV、蛍光）、熱的性質（TGA、DSC）、微細構造（光学・電子・走査型プローブ顕微鏡）を調べるための各種機器分析の原理およびそれらから得られる情報の取り扱いについて概説する。
	3 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
高分子化学 1	3 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
	3 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
化学・生命系英語 1	3 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
	3 年次 1 学期 系科目 必修 1 単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。

化学・生命系英語2	3年次 2学期 系科目 選択 1単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
技術表現法	3年次 3学期 系科目 必修 1単位 わかりやすくしかも説得力のある文章を書き、また発表することは、理科系・文化系を問わず将来必要となるスキルである。本講義では、それぞれの分野でよく使われる文章を題材に選び、より良い文章や図表の書き方、実験ノートやレポート、論文の書き方、口頭発表などプレゼンテーションの方法に関する基本技術を学ぶ。
機能分子化学	3年次 2学期 系科目 選択 2単位 学外から講師を招き、企業で開発あるいは社会で実用化されている医薬品や材料について、基礎理論から応用事例まで幅広く学ぶ。通常の大学の教員による講義では聴くことのできない社会のニーズや、企業における最近の開発動向、研究開発現場でのトピックス、技術者・研究者としての体験等について講義を受ける。
インターンシップ(長期)	3年次 休業期間中 系科目 選択 2単位 短期間(10日以上)、協力企業や共同研究機関に出向き、物づくりを始めとする実社会での企業活動の一部等を実際に経験・体験することによって、これから技術者を目指すものとしての心構えを体得する。 繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。
インターンシップ(短期)	3年次 休業期間中 系科目 選択 1単位 短期間(5~9日間)、協力企業や共同研究機関に出向き、物づくりを始めとする実社会での企業活動の一部等を実際に経験・体験することによって、これから技術者を目指すものとしての心構えを体得する。 繰り返し履修が可能であり、インターンシップ(長期)および(短期)は合わせて2単位まで卒業要件単位とする。
実践コミュニケーション論	1・2年次 3・4学期 系科目 選択 2単位 「社会人基礎力」のうち「チームで働く力」を身につけるための産学連携かつ学部横断型の課題解決型学習(PBL)の手法による授業である。チーム活動を円滑に進めるための技法、協働して独創的な発想を生み出す技法などについて、基礎スキル学習とミニ演習を通じて修得する。さらに、経済学部と工学部の学生が混合したチームで課題に取り組み、岡山県内の企業経営者への発表等を通じて、社会人に求められるコミュニケーションのベースラインを体感する。
特別演習	4年次 通年 系科目 必修 4単位 専門分野に関する知識の定着と深化を目的として、配属された各研究室において、主として英文で記述される専門書籍および論文の講読をおこなう。また、学術情報の効率的な収集方法、報告書、論文の作成方法および学会発表の方法などについて指導する。
特別研究	4年次 通年 系科目 必修 10単位 配属された各研究室において、3年生までの講義や実験等で学んだ基礎的事項をもとに、化学生命系分野の最先端研究に取り組む。研究のための資料収集、研究計画、基本および応用的な実験技術、実験結果に対する考察、成果のプレゼンテーションなど、自立した研究者、技術者となるための基本を総合的に学ぶ。研究者、技術者としての第一歩を踏み出すための重要な研究であるため、大きな志をもって取り組んでほしい。
無機化学3	2年次 4学期 コース共通 選択 2単位 分子の対称性とその数学的取り扱いについて学ぶ。また、金属イオンをいくつかの配位子が取り囲んでいる金属錯体は、無機化学、特にdブロック元素において重要な役割を演じている。錯体の構造を正しく理解させるため、まず、配位子がとる空間配列や、それにより生じる異性体について紹介する。 [備考] 応用化学コースでは必修科目とする。
物理化学3	2年次 3学期 コース共通 選択 2単位 水溶液での様々な現象にかかわるイオンの振る舞いについて学び、イオンを含む溶液の熱力学的扱いに深くかかわる電気化学電池について理解を深める。また、化学反応速度論や拡散について理解を深める。 [備考] 応用化学コースでは必修科目とする。
有機化学3	2年次 3学期 コース共通 選択 2単位 本講義では、アルケン、アルキン、アルコール、エーテル、カルボニル化合物の性質、合成法、反応機構に関する基礎的な事項を講述するとともに、酸化・還元反応についても学ぶ。なお、この講義は有機化学1、2の知識を前提に授業を進める。 [備考] 応用化学コースでは必修科目とする。
生化学3	2年次 4学期 コース共通 選択 2単位 代謝を分子レベルでの理解することを目的とする。糖の代謝経路、生体エネルギー(ATP)の生成機構、脂質、アミノ酸および核酸の生合成経路や分解経路について、各代謝経路における生体分子の化学構造の変換、およびその変換過程を触媒する酵素の機能と調節について講義する。 [備考] 生命工学コースでは必修科目とする。
生化学4	3年次 1学期 コース共通 選択 2単位 遺伝子組み換え操作の原理と応用、タンパク質の基本的な性質および精製法、さらに酵素の基本的性質や酵素反応速度論について講述する。 [備考] 生命工学コースでは必修科目とする。
無機化学4	3年次 2学期 コース共通 選択 2単位 無機化合物の構造、組成、電子構造を知るために広く使われている各種の分光分析法に代表される物理的測定法について、その原理と実際を学ぶ。また、d金属化合物が持つ多様な特性を理解するため、まずd金属化合物中の中心金属イオンの配位構造と電子状態が密接に関連していることを学び、それらがd金属化合物の光学的、磁気的性質と相関していることを理解する。
無機化学5	3年次 3学期 コース共通 選択 2単位 結晶の性質は原子の配列により支配される。その構造決定の手段としてX線回折、電子線回折、中性子回折法が用いられている。本講義では、結晶構造解析への理解が深まることを目標として、さまざまな固体(金属、イオン性結晶、分子性結晶)の構造について、構造の種類や記述法についての基礎概念を学ぶとともに、結晶の対称性の取り扱いの基礎と結晶構造解析の原理について学ぶ。
無機工業化学	3年次 4学期 コース共通 選択 1単位 固体状態のひとつである「非晶質」の状態にある無機材料について、その構造と物性を作製法と関連させながら講義する。非晶質材料は、その構造に起因した特異な性質を示し、具体的な事例を数多くあげながら、熱、光および機械的性質に見られるその特徴について理解を深める。また、非晶質材料の工学的、工業的利用についても触れる。
物理化学4	3年次 1学期 コース共通 選択 2単位 反応物がどのように生成物に変換されるかという疑問に対する答えを導き出すうえで、最も有力な手段の一つが、反応の速度論的解析である。この授業では、反応速度式を基本とした解析を学ぶ。また、巨大分子(すなわち分子としては巨大で、粒子としては小さいもの)の取り扱いについて学ぶ。コロイド、ミセルや、生体分子の巨大複合体などは、この範囲に属する。

科目名	授業要旨等
化学工学2	3年次 1・2学期 コース共通 選択 2単位
	化学プロセスは各種の単位操作から構成されている。本講義では、物理化学と移動現象論を基礎として、分離操作を中心とする各操作の原理を定量的に理解するとともに、操作設計を行うための考え方や基礎理論について学ぶ。分離プロセスとしては種々の化学工業において重要となるガス吸収、蒸留、抽出を取り上げる。現象や操作を定量的に取り扱うために有効な数式や各種の図表等を駆使し、工学的に操作条件を検討したり設計したりするための基礎能力を養う。
化学工学3	3年次 3学期 コース共通 選択 1単位
	化学プロセスで重要となる、気体あるいは液体混合物の分離、精製などに利用される吸着プロセス、均一な純度・形状の製品が比較的安全に得られるだけでなく、溶解度の差を利用した分離、精製に利用される晶析プロセス、および、原料、中間製品、最終製品での品質管理に重要な粒子状物質プロセスについて、その基礎を理解し、プロセスの設計を行うための考え方を身に付ける。
化学工学4	3年次 4学期 コース共通 選択 1単位
	物質生産のための化学プロセス設計には、化学反応の機序を理解し、応用することが必要である。本講義では化学・生体触媒を用いた各種反応の速度式を実験データから定式化する方法や、異なる様式の反応器の特性や設計原理の習熟に必要な基礎理論について講述し、反応工学を基盤としたプロセス設計を行うための基礎力を涵養する。
化学装置設計製図	3年次 3学期 コース共通 選択 1単位
	化学装置製図の基礎となる JIS 製図を学び、基本的な決まりと記号を理解するとともに、ネジ、配管、管継手、バルブなど、化学プロセスで用いられる部品の構造と規格を修得する。また、簡単な装置の立体図および正投影図の描画法を学ぶことで、3次元物体と2次元図面の関係を（直感的に）理解する能力を身に付ける。
有機化学4	3年次 1学期 コース共通 選択 2単位
	本講義では、アルデヒド、ケトン、カルボン酸および関連化合物の性質、合成法、反応に関する基礎的事項について講述する。カルボニル基への求核的付加反応、エノール、エノラートの反応を中心に、カルボニル化合物の炭素-炭素結合形成反応を取り扱う。なお、この講義は有機化学1～3の知識を前提に授業を進める。
有機化学5	3年次 2学期 コース共通 選択 2単位
	本講義では、共役ジエン、芳香族化合物およびアミンの性質、合成法、反応機構に関する基礎的な事項を講述するとともに、ラジカル反応についても学ぶ。なお、この講義は有機化学1～4の知識を前提に授業を進める。
有機工業化学	3年次 4学期 コース共通 選択 1単位
	自然界より大量に取得される物質である石油（や石炭）は、燃料としてだけでなく化学製品として現代社会を支えている。本講義ではそれらを産み出す石油化学工業のプロセスで行われている有機反応について学ぶ。また、医薬、農業などのファインケミカルについても、その合成法、化合物の性質などについて学ぶ。くわえて、化学工業において石油化学工業を補完する位置づけにある、油脂化学工業についても理解を深める。
工業材料2	3年次 2学期 コース共通 選択 1単位
	セラミックスは先史時代の土器から、近年の電子セラミックスまで長い歴史がある。この間に蓄えられた多くの知識を整理し、セラミックスの本質、セラミックスの基礎科学とセラミックス産業について概説する。くわえて、セラミックスと環境保全との関連性を紹介する。
高分子化学2	3年次 3学期 コース共通 選択 1単位
	高分子に特有の固体構造の特徴および力学的性質の特徴について理解する。高分子と環境の関わりについて考える。
高分子化学3	3年次 4学期 コース共通 選択 1単位
	汎用高分子、エンジニアリングプラスチック、高機能・高性能高分子材料、ゴム、天然高分子材料、高分子複合体などの高分子材料の構造と物性の特徴を理解する。高分子と環境の関わりについて考える。
応用化学実験1	3年次 1学期 応用化学コース科目 必修 2単位
	種々の応用化学分野における課題に対処するために不可欠な実験技術と考え方を修得することを目的とする。具体的には3種類の低分子量物質をそれぞれ異なる反応経路で合成する実験、強誘電体の合成と構造解析および物性評価、また、加水分解反応などの反応速度の測定と反応速度定数の決定を行う。本実験を通じ、いくつかの分離精製技術や測定装置の原理・取り扱いに習熟することも目指す。
応用化学実験2	3年次 3学期 応用化学コース科目 必修 2単位
	応用化学分野において比較的高度な実験技術の修得を目的とする。低分子量物質に加え、高分子量物質を合成し、その種々の物性を定量する。代表的な無機吸着材料を原料から合成し、その収率から特性までの評価を行う。さらに固定化酵素の調製とそれを用いたバイオリアクターの構築と性能評価を行う。個々の実験の背景にある理論や原理を十分理解した上で、実験結果を的確に解釈する能力を涵養することを旨とする。
応用化学各論1	4年次 休業期間中 応用化学コース科目 選択 0.5単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、応用化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
応用化学各論2	4年次 休業期間中 応用化学コース科目 選択 0.5単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、応用化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
応用化学各論3	4年次 休業期間中 応用化学コース科目 選択 0.5単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、応用化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
応用化学各論4	4年次 休業期間中 応用化学コース科目 選択 0.5単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、応用化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
応用化学各論5	4年次 休業期間中 応用化学コース科目 選択 0.5単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、応用化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
応用化学各論6	4年次 休業期間中 応用化学コース科目 選択 0.5単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、応用化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。

科目名	授業要旨等
生命工学実験 1	3 年次 1 学期 生命工学コース科目 必修 2 単位
	生命工学研究に必要な、基礎的な知識、実験技術、生物・生体材料の取り扱い、データ解析法を、タンパク質や核酸などに関する実験を通して修得する。さらに実験データの取り扱い・整理の仕方、レポートの書き方などの実験に関する基本的な事項について実践的に学ぶ。
生命工学実験 2	3 年次 3 学期 生命工学コース科目 必修 2 単位
	生命工学に関する研究遂行に欠かせない高度な知識と技術を、組換え DNA 実験や動物細胞などを扱う実験を通して修得する。生命科学に関わる先端実験操作、分析機器、データ解析、情報収集についてその原理を理解し、利用方法を学ぶ。
遺伝子工学	3 年次 2 学期 生命工学コース科目 選択 1 単位
	分子生物学などの成果に基づいて、地球上の重要な財産の一つである遺伝子資源を人類の利益のために適切に有効利用するための原理と方法について講述する。遺伝子をクローニングし、異種生物内で発現させるための主要な方法と、それを実現するために必要とされる材料についての知識を修得するとともに、遺伝子工学における基本的な考え方を理解することを目的とする。
蛋白質工学	3 年次 2 学期 生命工学コース科目 選択 1 単位
	生化学 4 でタンパク質の基礎を学んだ後、タンパク質工学の応用について講義する。タンパク質は、様々な生命現象を制御する重要な生体高分子であり、その機能を新しく創り変えることにより、遺伝子発現などの標的の生命現象を宿主生物とは独立に、しかも望むように制御することが可能である。そのため、本講義では、そのような新しいバイオテクノロジー創出に必要な基本概念と応用例について講述する。
分子生物学	3 年次 2 学期 生命工学コース科目 選択 1 単位
	分子生物学とは生物の体を構成する物質の構造を解析し、そこに存在する生体情報やその流れの把握によって生命現象の本質を理解しようとする学問である。本講義では真核細胞における細胞内の情報伝達の分子機構から遺伝情報の発現機構の分子の基礎を解説する。
バイオナノテクノロジー	3 年次 3 学期 生命工学コース科目 選択 1 単位
	生物には、機械的な動作や判断に比べると「柔らかい」という表現が似合う。しかし、生命現象の道具立ては実際には複雑で個性的な相互作用が存在しており、生物を人工的に作り出すことはたいへん難しい。そこで、分子レベルや個別の現象を取り上げて、どのような方法論やどのような事象において、その成果があげられ、かつ応用されているかを講述する。
細胞工学	3 年次 4 学期 生命工学コース科目 選択 1 単位
	高等動物細胞の構造と細胞内小器官の役割について解説し、生命現象を支える細胞の全体像について理解する。また、ハイブリドーマの作製を始めとする細胞工学技術の基礎に加えて、細胞機能の遺伝子工学的な改変技術、遺伝子改変動物の作製法とこれらの技術のバイオテクノロジー分野への応用について述べる。
生命工学各論 1	4 年次 休業期間中 生命工学コース科目 選択 0.5 単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、生命工学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、最先端における現状を他大学または企業からの講師により講述する。
生命工学各論 2	4 年次 休業期間中 生命工学コース科目 選択 0.5 単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、生命工学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、最先端における現状を他大学または企業からの講師により講述する。
生命工学各論 3	4 年次 休業期間中 生命工学コース科目 選択 0.5 単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、生命工学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、最先端における現状を他大学または企業からの講師により講述する。
生命工学各論 4	4 年次 休業期間中 生命工学コース科目 選択 0.5 単位
	化学・生命系学科の基本となる教科を修得した上で、生命工学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、最先端における現状を他大学または企業からの講師により講述する。

4 学 修

(1) 履 修

① 履修登録科目単位の上限制

通常講義における1単位は、15時間の授業と30時間の自学・自習の勉強に対して与えられるべきものであるため、過多の履修単位数でそれが実現できない状況となることを避けるため、一学期あるいは一年間の履修単位数に上限を設けるものです。これは、履修単位を単に制限するというだけのものではなく、各授業内容をより一層理解し、能力の育成を図ることを目的とする制度です。

工学部では一年間の履修登録科目単位の上限を50単位としています。各学期で出来るだけ平準化（1学期あたり12単位程度を上限とすること）するよう履修計画を立ててください。

上限を超えて履修登録をした場合は、上限単位数以下になるよう履修登録科目の変更あるいは履修登録の削除を行わなければなりません。削除の手続きを行わない場合は、科目の履修が認められなくなり、年度末において上限を超えた単位が判明した場合は、その年度の全科目が無効となる場合があります。

なお、上限単位数は「教養教育科目」と「専門教育科目」を合わせた単位数で、「特別研究」、「卒業要件外単位として扱われる教員免許取得に必要な科目」、「自然科学の補習授業」、「グローバル人材育成特別コースを修了するために必要な科目」は除きます。

また、前年度の成績が優秀な学生は、その年度に限り以下のとおり上限単位を超えて履修することができます。

対象者：前年度に上限単位数の8割以上を修得し、以下の条件を満たす者

*平均点が80点以上の者・・・年間当たり8単位まで増加可能

*平均点が75点以上80点未満の者・・・年間当たり4単位まで増加可能

注) 平均点=各修得科目(得点×単位数)の総和/修得総単位数

② 履修手続きの方法

学年の始めに指示される授業時間表及びシラバス等により立てた各自の履修計画に基づき、パソコン等を利用して履修登録を行わなければなりません。詳細については、オリエンテーション及び系・コースの教務委員の指示に従ってください。

登録期間内に履修登録を行わなかった場合は、授業への出席は認められません。

以下に、履修手続きの概略を述べますので、流れに沿って間違いのないよう手続きをしてください。

なお、入学した年度のみ、1年生対象の専門基礎科目の必修科目は自動で登録されます。

1) パソコンによる履修登録

各期に履修する全ての授業科目を、パソコンを利用して履修登録します。履修手続きの日程等については、事前に掲示等により通知しますので、十分注意してください。

URL = <https://kyomu.adm.okayama-u.ac.jp/portal/>

登録後は、クラス間違い等の確認を行い、必要に応じて内容を訂正してください

2) エラーの有無の確認

履修登録を行った翌日以降にパソコンでエラーの有無を必ず確認してください。

深夜にデータベースの書き換えが行われ、その後表示されます。画面に科目名が表示されていても、チェック結果がエラーとなった科目は履修ができません。内容に間違い等が無く、エラーも無い場合、履修手続きは完了となります。

3) 履修登録内容の修正

履修登録内容及びエラーの有無の確認を行った結果、登録内容に間違いがある、科目を変更したい、上限単位を超過している、エラー表示が出ている等の場合には、各自パソコンで履修科目の登録修正及び内容確認を行い、翌日以降に再度、エラーの有無を確認してください。

③ 教養教育科目の履修について

教養教育科目の履修については、「工学部学生便覧」、「シラバス」及び「工学部時間割表」などを参照してください。

なお、履修にあたり履修登録期間の前に抽選を行う科目があります。掲示などで抽選方法・期間を別途周知しますので、確認のうえ抽選を忘れないようにしてください。

また、履修上の指示事項等は、主に一般教育棟において掲示により行われますので、よく確認してください。

④ 専門教育科目の履修について

専門教育科目の履修については、「工学部学生便覧」、「工学部時間割表」、「シラバス（岡山大学ホームページ掲載）」を参照の上、必要な場合は系・コースの教務委員の履修指導を受けて行ってください。

⑤ 他学部・他系履修について

他学部・他系の専門教育科目を履修したい場合は、所定の用紙に授業担当教員と所属系（教務委員）の承認を得て、履修登録期間中に学務課工学部担当へ提出してください。

但し、以下の点に注意してください。

・履修は認められても、卒業要件単位として認められない場合があります。

・全学開放科目の他学部の専門基礎科目を履修する場合は、教養教育科目の知的理解として扱われるので提出は不要です。

・全学開放科目の他学部の専門科目を履修する場合は、教養教育科目とするか専門教育科目とするかを選ぶことができますが、教養教育科目として履修する場合は用紙の提出は不要です。（専門教育科目として履修をする場合は、用紙を提出すること。）

・全学開放科目であっても、他系の専門科目を履修する場合は用紙を提出してください。また、修得した単位は、各系の別に定める単位として扱います。

なお、提出する書類は学務課工学部担当にて配布しています。授業担当教員へ承諾をもらいに行く前に受け取りに来てください。

⑥ 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換科目履修について

中国・四国地区の8大学9学部間（岡山大学工学部、岡山大学環境理工学部、鳥取大学工学部、鳥根大学総合理工学部、広島大学工学部、山口大学工学部、徳島大学工学部、香川大学工学部、愛媛大学工学部）で単位互換協定を締結しています。

この科目の履修を希望する場合は、別途作成されている「中国・四国国立大学単位互換科目履修案内」を参照の上、所属系の教務委員の指導等を受けてください。

⑦ 工学部海外短期研修について

工学部が独自に行っている海外短期研修プログラムであり、渡航期間以外に事前研修や事後研修及び報告会を実施します。海外渡航経験が無い学生にもグローバル化を実感してもらう主旨のプログラムなので、積極的な参加を期待しています。

なお、参加者募集にあたっては掲示にて周知します。

⑧ 特別研究について

4年次に通年（1年間）で開講される、必修の授業科目です。

履修は、所属コース及び指導教員等の指導を受けて行われます。指導教員の決定は、原則、3年次の第4学期末に決定します。

- 1) 3年以上在学し、各コースの定める要件単位数を修得した者は、特別研究の申請をすることができます。（要件の詳細は、各系の履修方法の頁を参照すること。）
- 2) 特別研究申請は、指導教員へ申し出るものとし、履修登録は不要です。
- 3) 特別研究報告書の提出日時は、各系・コースの指示に従うこと。
- 4) 特別研究は、各系・コースにおいて審査し、可否を決定します。
- 5) 特別研究の申請有効期間は、その年度に限ります。

⑨ 大学院進学について

工学部等（理学部、工学部）を基礎学部とする大学院として、岡山大学大学院自然科学研究科と岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科、岡山大学大学院環境生命科学研究科が設置されています。

これらの研究科は、博士前期課程（修士課程 2年）と博士後期課程（博士課程 3年）に区分されています。

また、大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと、大学院において認められた者は、大学院の受験資格が与えられます。ただし、大学の卒業資格は与えられません（退学扱い）。

(2) 試験及び評価方法等

① 厳格な成績評価について

- 1) 成績評価は授業の到達目標に対する学修者の到達度を表すものであり、到達目標と評価の方法をシラバスに明記する。
- 2) 成績評価は、期末テスト、中間テスト、小テスト、レポート提出、授業への取組・受講態度、出席状況などの多面的で多様な方法によって行い、授業終了時に行う最終評価（期末テスト）のみに偏重しないこととする。評価は授業の途中においても行い、その結果を学修者にフィードバックすることなどによって学修者の目標への到達度を高めることに努める。
また、授業の形態（講義、実験、実習、演習、実技等）に応じて、適切な評価方法を採用する。
- 3) 講義中心の科目以外のもの（実験・実習、創成科目等）においては、学力と同時に科目の特徴に応じて評価する項目（例えば、自主性、創造性、表現力、指導力、協調性、洞察力、理解力、分析力、実行力、企画力等）があればシラバスに明記する。
- 4) 同一授業科目については、評価の方法と基準を可能な限り統一し、担当教員による評価の差が生じないようにする。
- 5) 担当教員は、成績評価に対する学生の質問、疑問に対しては、適切に対応するものとする。
- 6) 評語及び評点に対する基準は以下のとおりとする。

評語	評点	基準
A+	90～100点	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
A	80～89点	到達目標を達成し、優秀な成果を収めている。
B	70～79点	到達目標を達成し、良好な成果を収めている。
C	60～69点	到達目標を概ね達成している。
F	0～59点	到達目標を達成していない。

② GPAについて

1) GPA制度導入の目的

- i) 成績不振の学生をいち早く発見し、アカデミック・アドバイザーの教員を中心に適切な指導を行うこと。
- ii) GPAを目安にして学生に履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促すこと。
- iii) 学生に対して修得単位数だけでなく、個々の単位のレベルアップを図るよう喚起すること。

2) GPAの算出方法

i) GP（グレードポイント）算出方法

$$GP = (\text{評点} - 55) / 10$$

※ただし、評語「F」（不合格：評点60点未満）のGPは0とします。また、「W」、「認定」、「修了」、「未修得」については、対象外としGPを付しません。

ii) GPAの算出方法

履修登録した科目ごとにGPに単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

GPAの実際の計算方法例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP (b)	a × b
〇〇学概論	1	95	A+	4.0	4.0
〇〇学	1	85	A	3.0	3.0
□□学演習Ⅰ	1	55	F	0	0
□□学演習Ⅱ	0.5	70	B	1.5	0.75
△△基礎実験	0.5	90	A+	3.5	1.75
計					9.5

上表の学生の場合

履修登録した授業科目の単位数の和 = 4

(履修登録した授業科目の単位数 × 当該授業科目のGP) の和 = 9.5

$$GPA = 9.5 \div 4 = \underline{2.375}$$

- 3) GPAの対象とならない科目
- ・評点を示さず、認定または修了によって単位を取得できる科目
 - ・岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの
 - ・工学部によって定められた期間に履修取り消しの手続きを行った科目

③ 試験について

成績評価のため、各学期に期末試験を行います。しかし、授業科目によっては、レポート等の提出をもって試験に代えることがあります。また、期末試験以外に試験その他の考査を行うこともあります。詳細は、シラバス及び授業担当教員の指示に従ってください。

- 1) 定期試験の試験科目・日時・その他必要な事項は、その都度掲示又は担当教員によって指示されます。
- 2) 受験心得

期末試験の受験にあたっては、次の各事項に留意してください。
なお、この受験心得は、期末試験以外の試験にも準用します。

《 受 験 心 得 》

- 1 受験する学生は特別な指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- 2 監督者が指定した座席において受験すること。
- 3 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。(仮受験票を発行するので、学務課工学部担当へ申し出ること。)
- 4 受験中、机の上に置くことができるものは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板(物入れ)には何も置かないこと。
- 5 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- 6 解答用紙には、学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず記入すること。
- 7 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- 8 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- 9 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。
自己の机の上に置いて退室すると当該授業科目の単位は認定しない。
- 10 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。
なお、試験において不正行為を行った、不正行為を行おうとした、または不正行為を補助した者に対しては、学則第58条(大学院学則第49条)により厳重な懲戒処分を行う。
試験における不正行為は次のとおりである。ここで、試験時間中とは、解答の開始から答案の提出までをいう。
 - 1) 代理(替玉)受験をしたり、させたりすること
 - 2) 試験時間中に、使用が許可されていないノート及び参考書等並びに電子機器類その他試験問題解答の参考となり得る物品を参照すること又は使用すること
 - 3) 試験時間中に、言語、動作又は電子機器類等により他人に教示すること又は教示を受けて解答に利用すること
 - 4) 答案を交換すること
 - 5) 試験時間中に、他の学生の答案をのぞき見すること
 - 6) 試験時間中に、使用が許可されたノート及び参考書等並びに電子機器類を貸借すること
 - 7) 監督者の注意若しくは指示に従わないこと
 - 8) その他、試験の公正な実施を妨げる行為をすること
 また、不正行為を行った場合、または不正行為を行おうとした場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修している全ての授業科目(学期をまたがって開講する授業科目を含む。)の単位は認定しない。

- 3) 受験延期を希望する者は、次のとおり願ひ出でて許可を得なければなりません。
ただし、追試験実施等の有無は、授業担当教員の判断によります。

科目区分	提出書類	提出場所	添付書類	提出日
教養教育科目	受験延期願	学務部学務企画課 教育支援グループ (一般教育棟内)	診 断 書 (病気・負傷の場合) 理 由 書 (その他の場合)	試験の前日まで(ただし、 突発事故の場合はこの限 りではない。)
専門教育科目	欠席届	授業担当教員		

④ 成績評価の表記について

成績の評価は、A+, A, B, C, F, W, 保留, 修了, 及び認定の評語をもって表し、A+, A, B, C, 修了及び認定を合格(単位修得)、F及び未修得を不合格(単位未修得)、Wを履修取消手続を行った授業科目としています。

また、2以上の学期で続けて実施する連続性・継続性の高い科目(例えば、「○○論1」、「○○論2」など)の成績評価において、前半の成績評価がF(不合格)である場合のみ、後半の成績によっては前半の成績評価をCに引き上げる可能性を残しておくことが教育上効果のあるものと認める場合については、当該評価を“保留”とし、後半の成績評価の際に前半の評価を見直すことがあります。

なお、「保留」という評価を行う可能性がある授業科目については、時間割表にて指示しますので、注意してください。

- 1) 通常の授業は、A+, A, B, C, F, Wで表記
- 2) 特定の授業は、上記に保留を加えて表記
- 3) 「特別研究」、「機械システム工学総合実習」、「特別演習」は、修了または未修得で表記
- 4) 他大学で修得した単位、外部検定試験、編入学・転学部等による前籍での修得単位は、認定で表記(中国・四国国立大学工学系学部間単位互換協定に基づくものは除く)
- 5) 転系・転コース時における前籍の成績は、その評点を引き継いで表記
評価基準: A+ (100~90点), A (89~80点), B (79~70点), C (69~60点), F (59点以下)

⑤ 成績の通知について

1) 学生への通知

各学期の成績は、学期末に各自学務システムのホームページ上で確認してください。

日時及び方法は掲示等により確認してください。

URL = <https://kyomu.adm.okayama-u.ac.jp/portal/>

(学外からアクセス可能です。)

2021, 2022 年度入学生において、赤字のとおり学生便覧の修正があります。各自の学生便覧を加筆修正しておいてください。

2) 保護者等への通知

本学では、保護者の方との連携により、学生の皆さんへの適切な修学指導を行うことを目的として、成績を保護者の方へ通知しています。(外国人留学生を除く)

1 年次生：9 月，3 月の年 2 回

2 年次生以降：3 月の年 1 回

なお、特段の理由により保護者への成績通知を希望しない場合は、7 月末（2 年次生以降は 1 月末）までに学務課工学部担当まで申し出てください。学部で審査のうえ、結果をお知らせします。

*特段の理由とは、1) 企業等を退職した年配の学生、2) 社会人学生、3) 両親がいないといった場合等で、成績を通知すべき適当な対象がいない学生及び 4) その他保護者への成績通知をすることが適当でない特段の事情がある学生に限るものとする。

⑥ 成績評価に関する質問・疑問の受付について

1) 専門教育科目に関して、成績開示後、開示された成績に質問・疑問等がある場合は、当該授業担当教員に質問等をすることができます。

2) 開示された成績に納得できない場合は、「岡山大学工学部における成績評価異議申立に関する要項」に基づき、当該成績評価の開示日から原則として 8 日以内に異議を申し立てることができますので、自然系研究科等学務課工学部担当にその旨を申し出てください。

成績評価に関する質問・疑問等がある場合には、自然系研究科等学務課工学部担当にその旨を申し出てください。

(3) 単位認定の制度

工学部へ入学、他学部から転学部、工学部内で転系・転コースした場合、前籍での修得単位を認定する制度があります。また、在学中に他大学等で修得した単位及び外部検定試験の成績による単位の認定制度もあります。

単位の認定は、いずれも願い出に基づき工学部教授会の議を経て行い、結果は別途、学務課工学部担当において通知します。

① 1 年次へ入学した者

入学前に大学（外国の大学を含む。）若しくは短期大学（外国の大学を含む。）で修得した単位があり単位認定を希望する場合は、入学後に所定の様式に成績証明書及び修得科目の講義要項等を添えて、学務課工学部担当へ願い出ること。提出期限については、別途掲示等により指示します。

② 転学部した者

出願書類（成績証明書）及び出身学部への照会等により行うので、改めて単位認定を願い出る必要はありません。

③ 転系・転コースした者

前籍の成績を引き継ぎますので、改めて単位認定を願い出る必要はありません。

3 年次生として転系・転コースを受け入れられる学生において、3 年次実験履修要件は適用されません。

④ 第 3 年次編入学者

出願書類（成績証明書）、その他指示する書類及び単位認定試験により、単位認定を行う。

教養教育科目は、原則として当該系の卒業要件単位数を修得したものとして認定する。

⑤ 他大学等の単位を工学部在学中に修得した者

他大学等の授業を履修する前に、所定の様式により所属系・コースの承認を得て学務課工学部担当へ願い出てください。その後、本学と当該大学等との協議の成立が得られた場合に限り、履修が許可されます。

当該大学等での単位修得後、所定の様式に単位修得証明書等を添えて、学務課工学部担当へ願い出てください。

⑥ 外部検定試験等による単位認定を希望する者

次表に示す基準に該当する者で単位認定を希望する場合は、スコアシートを持って学務課工学部担当へ願い出てください。受付期間及び単位認定予定日等は、年度初めに掲示によりお知らせします。

2021, 2022 年度 学生便覧 P.101 の修正

別表第1 (夜間主コースを除く。)

外国語の種類	単位認定の対象とする外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限	
英語	TOEIC Listening & Reading 又は TOEIC Listening & Reading IP	850点以上	英語 (スピーキング) -1 英語 (スピーキング) -2	5単位まで	
	実用英語技能検定 (英検)	1級	英語 (リーディング) -1		
	国際連合公用語英語検定試験 (国連英検)	A級	英語 (リーディング) -2 英語 (ライティング) -1 英語 (ライティング) -2		
	TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	576点以上	英語 (リスニング) -1		
	TOEFL iBT	82点以上	英語 (リスニング) -2		
	IELTS	6.5点以上	英語 (総合) -1		
	GTEC Academic 4技能	678点以上	英語 (総合) -2		
	GTEC Academic 2技能	349点以上	英語 (S & L) -1 英語 (S & L) -2 英語 (R & W) -1 英語 (R & W) -2		
	TOEIC Listening & Reading 又は TOEIC Listening & Reading IP	800点以上	英語 (総合) -1 英語 (総合) -2		4単位まで
	TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	554点以上	英語 (S & L) -1		
	TOEFL iBT	75点以上	英語 (S & L) -2		
	IELTS	6.0点以上	英語 (R & W) -1		
	GTEC Academic 4技能	646点以上	英語 (R & W) -2		
	GTEC Academic 2技能	331点以上			
	TOEIC Listening & Reading 又は TOEIC Listening & Reading IP	750点以上	英語 (総合) -1 英語 (総合) -2		2単位まで
	実用英語技能検定 (英検)	準1級	英語 (S & L) -1		
	国際連合公用語英語検定試験 (国連英検)	B級	英語 (S & L) -2 英語 (R & W) -1 英語 (R & W) -2		
	TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	532点以上			
TOEFL iBT	68点以上				
GTEC Academic 4技能	613点以上				
GTEC Academic 2技能	313点以上				
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	2級以上	ドイツ語初級Ⅰ-1 ドイツ語初級Ⅰ-2 ドイツ語初級Ⅱ-1 ドイツ語初級Ⅱ-2 ドイツ語初級Ⅰ-1 (インテンシブ) ドイツ語初級Ⅰ-2 (インテンシブ) ドイツ語初級Ⅱ-1 (インテンシブ) ドイツ語初級Ⅱ-2 (インテンシブ) ドイツ語中級	4単位まで	
		3級	ドイツ語初級Ⅰ-1 ドイツ語初級Ⅰ-2 ドイツ語初級Ⅱ-1 ドイツ語初級Ⅱ-2 ドイツ語初級Ⅰ-1 (インテンシブ) ドイツ語初級Ⅰ-2 (インテンシブ) ドイツ語初級Ⅱ-1 (インテンシブ) ドイツ語初級Ⅱ-2 (インテンシブ) ドイツ語中級	3単位まで	
		4級	ドイツ語初級Ⅰ-1 ドイツ語初級Ⅰ-2 ドイツ語初級Ⅱ-1 ドイツ語初級Ⅱ-2 ドイツ語初級Ⅰ-1 (インテンシブ) ドイツ語初級Ⅰ-2 (インテンシブ)	2単位まで	
		5級	ドイツ語初級Ⅰ-1 ドイツ語初級Ⅰ-2	1単位まで	

フランス語	実用フランス語技能検定試験（仏検）	3級以上	フランス語初級Ⅰ－1 フランス語初級Ⅰ－2 フランス語初級Ⅱ－1 フランス語初級Ⅱ－2 フランス語中級	4単位まで
		4級	フランス語初級Ⅰ－1 フランス語初級Ⅰ－2 フランス語初級Ⅱ－1 フランス語初級Ⅱ－2	2単位まで
		5級	フランス語初級Ⅰ－1 フランス語初級Ⅰ－2	1単位まで
中国語	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ） ※5級・6級については、180点以上のスコアを獲得した場合、単位認定の対象とする。	4級以上	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2 中国語初級Ⅱ－1 中国語初級Ⅱ－2 中国語初級Ⅰ－1（インテンシブ） 中国語初級Ⅰ－2（インテンシブ）	4単位まで
		中国語検定試験（中検）	2級以上	
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	3級	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2	3単位まで
	中国語検定試験（中検）	3級	中国語初級Ⅱ－1 中国語初級Ⅱ－2 中国語初級Ⅰ－1（インテンシブ） 中国語初級Ⅰ－2（インテンシブ） 中国語初級Ⅱ－1（インテンシブ） 中国語初級Ⅱ－2（インテンシブ） 中国語中級	
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	2級	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2	2単位まで
	中国語検定試験（中検）	4級	中国語初級Ⅱ－1 中国語初級Ⅱ－2 中国語初級Ⅰ－1（インテンシブ） 中国語初級Ⅰ－2（インテンシブ）	
	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	1級	中国語初級Ⅰ－1 中国語初級Ⅰ－2	1単位まで
	中国語検定試験（中検）	準4級		
韓国語	韓国語能力試験	2級以上	韓国語初級Ⅰ－1 韓国語初級Ⅰ－2 韓国語初級Ⅱ－1 韓国語初級Ⅱ－2 韓国語中級	4単位まで
		1級	韓国語初級Ⅰ－1 韓国語初級Ⅰ－2 韓国語初級Ⅱ－1 韓国語初級Ⅱ－2	2単位まで
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上	スペイン語ベーシック1～4 スペイン語ステップアップ	4単位まで
		5級	スペイン語ベーシック1～4	2単位まで
		6級	スペイン語ベーシック1及び2	1単位まで
イタリア語	実用イタリア語検定	3級以上	イタリア語ベーシック1～4 イタリア語ステップアップ	4単位まで
		4級	イタリア語ベーシック1～4	2単位まで
		5級	イタリア語ベーシック1及び2	1単位まで

- 備考 1 英語の認定は原則として、同一科目の「－1」と「－2」に対して行うこと。やむを得ず「－1」と「－2」の片方のみ認定する場合は、「－2」を認定する。「－1」のみの認定は、学生が「－2」をすでに履修している場合にのみ行って良いものとする。
- 2 「GTEC Academic 4技能」のスコアのうち、2技能のみを用いて、「GTEC Academic 2技能」の単位認定の対象とすることはできない。
- 3 この基準に基づき、単位認定を行う場合の成績評価の評語は、「認定」とする。

- 4 一の授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。
- 5 既に単位を修得済みの授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。

GTEC Academic と TOEIC の換算について（「岡山大学における英語関係の外部検定試験等に係るスコア換算基準」より抜粋）

- 1 GTEC Academic 4 技能と TOEIC のスコアの換算は次の算式により算出するものとし、小数第 1 位を四捨五入して求めるものとする。

$$\text{TOEIC} = \text{GTEC Academic 4 技能} \times 1.540 - 194.0$$
- 2 GTEC Academic 2 技能と TOEIC のスコアの換算は次の算式により算出するものとし、小数第 1 位を四捨五入して求めるものとする。

$$\text{TOEIC} = \text{GTEC Academic 2 技能} \times 2.836 - 137.5$$
- 3 前 2 項にかかわらず、算出された TOEIC スコアが 1 に満たない場合は換算を行わないこととし、990 を超える場合の TOEIC スコアは 990 とする。

【参考】 GTEC Academic と TOEIC の換算表

TOEIC 又は TOEIC IP	GTEC Academic 4 技能	GTEC Academic 2 技能
450 点	418 点	207 点
400 点	386 点	190 点